

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-------------|---------------|------------|
| 科目名 (英) | 数学 (Mathematics) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高橋未倫 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 金曜3限 |
| 教員の略歴 | H23医療法人松田会 松田病院 R3仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 理学療法士 修士(理学), Golf physio trainer(2017取得) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 本授業ではこれからの物理学・統計学等あらゆる分野において応用可能であり、実社会においても役立つ計算を多く取り入れている。基礎の基礎から学び、数学嫌いを克服し、これから活かせる知識を習得することができる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は、光学系の計算で使用する、三角関数・二次関数をどんな形でも使用できるようになることである。 全てのことわりは数学で成り立っており、数学なくして物質の成り立ちは説明できない。 全15回の講義では、必ずどの分野でも必要な共通部分に関してマスターすることを目指す。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | レポートおよび出席数で評価 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------------------|-------|------|----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月8日 | 講義 | 四則演算・小数・分数の計算ができる | 授業内容の復習 |
| 2 | 4月15日 | 講義 | 四則演算・小数・分数の計算ができる | 授業内容の復習 |
| 3 | 4月22日 | 講義 | 文字式・一次方程式の計算ができる | 授業内容の復習 |
| 4 | 5月13日 | 講義 | 連立方程式・式の展開ができる | 授業内容の復習 |
| 5 | 5月20日 | 講義 | 因数分解・二次方程式の計算ができる | 授業内容の復習 |
| 6 | 5月27日 | 講義 | 平方根について理解する | 授業内容の復習 |
| 7 | 6月3日 | 講義 | 中間試験 | 試験内容の復習 |
| 8 | 6月17日 | 講義 | 二次関数において、たすき掛けを利用できる | 授業内容の復習 |
| 9 | 6月24日 | 講義 | 二次関数において、解の公式を利用できる | 授業内容の復習 |
| 10 | 7月1日 | 講義 | 指数・対数を理解する | 授業内容の復習 |
| 11 | 7月8日 | 講義 | 指数から対数、対数から指数に変換できる | 授業内容の復習 |
| 12 | 7月15日 | 講義 | 三角関数の基本を理解する | 授業内容の復習 |
| 13 | 7月22日 | 講義 | 三角関数の応用を理解する | 授業内容の復習 |
| 14 | 9月2日 | 講義 | 最終試験, 中間テスト解説 | 授業内容の復習 |
| 15 | 9月16日 | 講義 | レポート解説 | 授業内容の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 適時課題を出します。 | |
| 【参考書】 間地 秀三著「小・中・高の計算がまるごとできる」(ベレ出版) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|----|-------------|---------|---------------|
| 科目名 (英) | 統計学 (Statistics) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木 寿則 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 医学博士を取得後、教育機関で9年間の教育経験を有する。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | この授業は、視能訓練士に必要な統計学の知識を学修するためのものである。 他に関連する科目として、公衆衛生学における疫学分野がある。 受講生に対する要望は、卒業後の研究活動に役立てるためにを学んでほしい。 そのために、授業の展開として、教科書を中心に講義を行い、統計学の基礎について学び説明できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①医学研究に必要な統計学の基礎知識を説明できる。 ②統計的視点からの医学的判断を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---|-------|--------------------------------------|---------------------|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/2 | 講義 | 医学研究のプロセスについて説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 2 | 9/9 | 講義 | データの収集について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 3 | 9/16 | 講義 | 変数について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 4 | 9/30 | 講義 | 変数の測定方法について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 5 | 10/7 | 講義 | 測定の妥当性について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 6 | 10/14 | 講義 | 悉皆調査について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 7 | 10/21 | 講義 | 標本調査について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 8 | 10/28 | 講義 | 調査票の作成方法について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 9 | 11/4 | 講義 | 選択肢の設定について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 10 | 11/11 | 講義 | 実験計画について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 11 | 11/18 | 講義 | 統制について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 12 | 11/25 | 講義 | クロス集計析について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 13 | 12/2 | 講義 | 代表値について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 14 | 12/9 | 講義 | 相関分析について説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 15 | 12/23 | 講義 | スクリーニングについて説明できる。 | | 教科書の通読 |
| 準備学習 時間外学習 | | あらかじめ教科書を通読し、講義内容の概略を把握しておくことを目的とする。 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |
| 古野谷 亘・長田 久雄 著 『実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方』 ワールドプランニング, 1992. | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------------|-------------|---------------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 情報処理学 I () | 必修 選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 阿部 かざみ |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 15時間 (2単位) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 月曜日 3時限目 |
| 教員の略歴 | Word・Excel・PowerPointの操作方法を専門学校・PCスクール・企業研修・就職支援などで指導 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 現代では業種・職種を問わず社会生活に必須となっているパソコンのスキルが求められています。シェアが90%を超えているWindows系のOfficeを実技を中心として学び、職場での活用技術を身に着ける。業務報告書の作成、データ集計・集計結果の分析、学会に向けての資料作りなど。視能訓練士として必要なパソコンスキルを学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | Word・Excel・PowerPointの基本操作、効率の良い使用方法、また、実務例に基づいたレポート・資料などの作成ができるレベルを目指す | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 実技試験70% 出席点15% 平常点15% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|--------|------|---|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月26日 | 実習 | 効率のよい入力方法を覚える | 準備学習 Windowsの基本操作(日本語入力・マウス操作・キーボード操作)やファイル・フォルダーの扱い(作成・移動・コピーなど)ができる方が望ましい 学習課題 積み重ね授業になるので、授業終了後は復習をし、確実に次の時間に活かせることが望ましい |
| 2 | 10月3日 | 実習 | Wordの基本編集機能を操作できる | |
| 3 | 10月17日 | 実習 | ビジネス文書の基本ルールを覚える | |
| 4 | 10月24日 | 実習 | 表を作成・編集できる | |
| 5 | 10月31日 | 実習 | グラフィックスを使用できる | |
| 6 | 11月7日 | 実習 | ワークシートの効率的な編集ができる | |
| 7 | 11月14日 | 実習 | 四則演算ができる | |
| 8 | 11月21日 | 実習 | 簡単な関数や、参照方法ができる | |
| 9 | 11月28日 | 実習 | 表を編集し、印刷設定ができる | |
| 10 | 12月5日 | 実習 | グラフを作成できる | |
| 11 | 12月12日 | 実習 | スライドの基本操作やテーマを設定できる | |
| 12 | 12月19日 | 実習 | スライド内で表やグラフを活用できる | |
| 13 | 1月16日 | 実習 | Web上の画像やグラフィックスを扱える | |
| 14 | 1月23日 | 実習 | アニメーション効果をかけられる | |
| 15 | 2月6日 | 実習 | 試験解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | パソコン操作に慣れるためにも時間外にも報告書・課題などパソコンを使用して作成してほしい | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 滋慶出版社 Word2016・Excel2016・PowerPoint2016 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-------------|---------------|-------------|
| 科目名 (英) | 生物学 (Biology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 高橋英子 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 火曜日1限 |
| 教員の略歴 | 山形大学医学部助教、東北大学医学部助教、薬学博士、医学博士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 基本的には教科書を中心に展開する。 「人の構造と機能」を理解するための基礎知識としての生物学と位置づけ、高等学校で生物学を学んでこなかった学生にも、生物現象を理解でき、日々自分の体で起こっている事象と照らし合わせて考えられるような授業構成とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 人体機能の基本を解明する「人の構造と機能」を理解する基礎知識としての生物学と位置づけ、今後学ぶ医学系教科を理解するための基礎作りを目標とする。 さらに将来、医療従事者(視能訓練士)になる者として必要とされる「生命科学」の基礎知識の習得も目指し、関連する国家試験問題にも対応できる力を身に着ける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|-------|------|--|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月5日 | 講義 | 教科ガイダンス、 第1章 生物とは何かを説明できる。 | |
| 2 | 4月12日 | 講義 | 第2章 体は細胞からできている事を説明できる。 | 細胞を構成している細胞内小器官について、その構造と機能をまとめる |
| 3 | 4月19日 | 講義 | 第2章 細胞・組織・器官から、からだができている事を理解する(～P16)、第5章 1 人体のつくり(P43～P44)では、器官系について説明できる。 | 教科書P16のkeywordの部分の説明できるようにしておく |
| 4 | 4月26日 | 講義 | 第5章 2 血液の働きを説明できる(P44～P51) | 血液の成分(血球、血漿)の種類と機能を説明できるようにする |
| 5 | 5月10日 | 講義 | 第6章 からだの調節のしくみ(免疫)について学ぶ(P60～P67) | 免疫の分類、しくみについて説明できるようにする |
| 6 | 5月17日 | 講義 | 第3章 食べ物からエネルギーをつくる仕組みを説明できる | 解糖系、クエン酸回路、電子伝達系をそれぞれ説明できるようにする |
| 7 | 5月24日 | 講義 | 第4章 食べ物から、からだをつくるの章では、蛋白質・脂質合成を説明できる(P34～39) | 蛋白や脂質の合成の仕組みを説明できるようにする |
| 8 | 5月31日 | 講義 | 第4章 体の水分について説明できる(P39～P41) | 体内での水の分布や働きを説明できるようにする |
| 9 | 6月7日 | 講義 | 第6章 神経系のしくみを説明できる(P53～P55) | 神経系の成り立ち及び働きを説明できるようにする |
| 10 | 6月14日 | 講義 | 第6章 内分泌系の働きを説明できる(P56～P60) | 内分泌系の構成と作用を説明できるようにする |
| 11 | 6月21日 | 講義 | 第2章 4 細胞分裂と増殖について説明できる(P16～P21) | 体細胞分裂と減数分裂の違いを理解する |
| 12 | 6月28日 | 講義 | 第8章 遺伝子の本体DNAについて説明できる | DNAの構造とタンパク合成の仕組みを理解する |
| 13 | 7月5日 | 講義 | 第7章 子どもが親に似る遺伝のなぞを説明できる | 性染色体と伴性遺伝を理解する |
| 14 | 7月12日 | 講義 | からだのしくみについて説明できる(まとめ) | 「人の構造と機能」の理解につながるように、生命現象に共通した原理や仕組みを説明できるようにする |
| 15 | 7月19日 | 講義 | 試験解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】教科書名:『わかる生物学』著者:小野廣紀・内藤通孝 出版社:化学同人 単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|---------|------|------------|
| 科目名 (英) | 物理学 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高橋 未倫 |
| | (Physics) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 後期 金曜3限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | H23医療法人松田会 松田病院 R3仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 理学療法士 修士(理学), Golf physio trainer(2017取得) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 物理学的基礎事項, 力と運動の関係(力学), それに伴う数学的知識を学び, 物体や人体の運動について物理学的視点で考える力を養い説明できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 物体や人体の運動について物理学的視点から考えることができるよう, 力学を中心に物理基礎を習得できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | (物理分野) レポート課題(70%), 出席(30%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|--------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月30日 | 講義 | 物理量とその表し方について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 2 | 10月7日 | 講義 | 物理学で使うグラフと関数について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 3 | 10月14日 | 講義 | いろいろな運動について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 4 | 10月21日 | 講義 | さまざまな力について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 5 | 10月28日 | 講義 | 力のつり合いと運動法則について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 6 | 11月4日 | 講義 | 物体の重鎮と回転運動について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 7 | 11月11日 | 講義 | 運動量, 仕事とエネルギーについて説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 8 | 11月18日 | 講義 | 光の基本的な性質を学び, 光の速度について | 授業内容の復習 |
| 9 | 11月25日 | 講義 | フェルマーの原理とSnellの法則を説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 10 | 12月2日 | 講義 | 光の分散について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 11 | 12月9日 | 講義 | 光の回折, 光の干渉について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 12 | 12月16日 | 講義 | 偏光について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 13 | 12月23日 | 講義 | レンズの仕組みについて説明できる。 Vergenceの法則が理解できる。 | 授業内容の復習 |
| 14 | 1月13日 | 講義 | 眼科検査機器への応用を学び, 各検査の原理を説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 15 | 1月27日 | 講義 | 試験解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 授業終了後の復習をしっかりと実施すること | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 講義内で適宜配布。 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|-----------------------|
| 科目名 (英) | 心理学 (Psychology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 蒔苗詩歌 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 土曜 曜日・時限 1.2.3限 |
| 教員の略歴 | 修士(教育学) 専門領域は認知心理学、特別支援教育。大学障害学生支援室や精神科にて勤務。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 心理学には幅広い領域がありますが、中でも「視覚」に関わる心理学について重点的に扱います。「見る・見ようとする・見えにくい・見えない」などといった経験について、心理学の視点から学んでいきます。日々の生活で何気なく見ている世界が、実は複雑な情報処理過程から成り立っていることを知り、日常生活での経験と結びつけて、その仕組みを考察できるようになることを目指します。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示されるキーワードについて説明することができる。 ・心理学的視点から、日常生活における視覚に関わる事象を検討することができる。 ・視能訓練士業務において、心理学的な視点をどのような場面で生かすことができるか、考えることができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小テストおよび小レポート 40% 各日終了時に課題を提示します。次回授業時に小テストによる確認、あるいは小レポート提出を課します。授業で扱った内容について、復習しましょう。また簡易実験により体験的に学びます。積極的に参加しましょう。 2. 最終レポート 60% 丸暗記するだけではなく、自身の言葉で整理・説明できること、自分の生活と結び付けて考えることを求めます。視能訓練士を目指すにあたって、心理学の知識をどのように生かすことができるか考えてみましょう。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|-------|------|--|----------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5月14日 | 講義 | 心理学とは、心理学諸領域で心を測ることができる。 | 「こころ」とはなんだろう、どのように考えますか？ |
| 2 | 5月14日 | 講義 | 視知覚：明るさ、色、奥行き、運動などについて説明できる。 | 見ることを情報処理として考えてみましょう。 |
| 3 | 5月14日 | 講義 | 錯視・錯覚、簡易実験による体験を説明できる。 | 日常生活での見る「経験」を振り返ってみよう。 |
| 4 | 5月28日 | 講義 | 視知覚：大きさ、形、まとまりなどを説明できる。 | 視覚の経験と情報処理、合わせて考察してみましょう。 |
| 5 | 5月28日 | 講義 | 視覚的注意：視覚と注意の関わりが説明できる。 | 注意によって見える／見落とす事象を考えてみましょう。 |
| 6 | 5月28日 | 講義 | 感覚間相互作用、簡易実験による体験が説明できる。 | 見る×聴く×触る、感覚を体験してみましょう。 |
| 7 | 6月25日 | 講義 | 記憶：短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリが説明できる。 | 記憶の種類を説明できるようになりましょう。 |
| 8 | 6月25日 | 講義 | イメージ：視覚イメージとその操作が説明できる。 | 見えない部分を想像する機能を考えてみましょう。 |
| 9 | 6月25日 | 講義 | 身体と認知の関わり、簡易実験による体験が説明できる。 | 身体と心、認知との関わりを考えてみましょう。 |
| 10 | 7月9日 | 講義 | 生涯発達：見る機能の発達、見える世界の広がりが説明できる。 | 私たちはいつから「見る」ことができると思いますか？ |
| 11 | 7月9日 | 講義 | 障害：感覚・知覚・認知機能の障害が説明できる。 | 見る機能について考えてみましょう。 |
| 12 | 7月9日 | 講義 | 視覚世界の個人差、疾患や障害の疑似体験が説明できる。 | 「見る」と「見える」の間を考えてみましょう。 |
| 13 | 7月23日 | 講義 | 臨床：見る世界を聞き取り、評価し、治療・支援へが説明できる。 | 相手が見ている世界を想像してみましょう。 |
| 14 | 7月23日 | 講義 | 基礎と臨床：心理学の視点を視能訓練に生かすことが説明できる。 | 視能訓練士にとって心理学は役に立つと思いますか？ |
| 15 | 7月23日 | 講義 | 最終レポート解説、授業まとめ | 自身のレポートをふりかえり、理解を深めましょう。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | テーマに関連した日常経験を“おやつ？”とふり返し、考察してみる機会を大切にしてください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】学校指定：山田富美雄(編)『医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー』、北大路書房 毎時間、資料を配布します。各回テーマの参考書を提示しますのでぜひ復習に活用してください。 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|--------------------------|
| 科目名 (英) | 英語 (English) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | ILC |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 月曜日 曜日・時限 1限 |
| 教員の略歴 | 日本人に対する英会話指導経験を有する。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 滋慶学園の英語教育に長期にわたって携わり、Active Learningに取り組んできたネイティブの英語教員が、学生が専攻分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 医療英語テキストに基づき、文法、発音、リスニングなど英語を習得するスキルと、医療に関係する英語語彙を様々なアクティビティを通して学習する。 眼科の現場で簡単なコミュニケーションが英語で出来るようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100点 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|------|------|--|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/11 | 講義 | ■Chapter 1 相手を知る 眼科で受付対応が出来るようになる 病院の職業の言い方がわかる | 教科書の予習・復習をする。 |
| 2 | 4/18 | 講義 | ■Chapter 2 病院案内 病院内の場所の言い方を覚える 病院内の案内が出来る | 教科書の予習・復習をする。 |
| 3 | 4/25 | 講義 | ■Chapter 3 身体の部位と痛み 身体の部位の名称を覚える 身体の痛みを説明出来る 症状の名称を覚える | 教科書の予習・復習をする。 |
| 4 | 5/9 | 講義 | ■Chapter 4 病気と症状 I have/I feel/I have a ----. の使い方を覚える | 教科書の予習・復習をする。 |
| 5 | 5/16 | 講義 | ■Chapter 5 既往歴① 重病や症状の名称を覚える | 教科書の予習・復習をする。 |
| 6 | 5/23 | 講義 | ■Chapter 6 既往歴② 患者の既往歴、家族歴を尋ねることが出来る 患者の習慣について尋ねることが出来る 内臓の名称を覚える | 教科書の予習・復習をする。 |
| 7 | 5/30 | 講義 | ■Chapter 7 患者への指示 診察時に患者に指示を与えることが出来る 身体計測が出来る | 教科書の予習・復習をする。 |
| 8 | 6/6 | 講義 | ■Chapter 8 バイタルサインの測定 バイタルサインの測定が出来る | 教科書の予習・復習をする。 |
| 9 | 6/13 | 講義 | ■Chapter 10 注射 注射をすることが出来る 患者に処置の説明が出来る | 教科書の予習・復習をする。 |
| 10 | 6/20 | 講義 | ■Chapter 12 眼科での検査 眼科で患者の検査が出来る | 教科書の予習・復習をする。 |
| 11 | 6/27 | 講義 | ■Chapter 16 会計 医療費を説明出来る | 教科書の予習・復習をする。 |
| 12 | 7/4 | 講義 | ■Chapter 17 薬の種類 薬について患者に指示できる 処方箋について説明出来る | 教科書の予習・復習をする。 |
| 13 | 7/11 | 講義 | ■眼の検査 眼の検査で使われる単語を覚える 様々な眼の検査の名称を覚える | 教科書の予習・復習をする。 |
| 14 | 7/25 | 講義 | ■ロールプレイ 視力検査のロールプレイを行う | 教科書の予習・復習をする。 |
| 15 | 8/29 | 講義 | 定期試験 | |
| 16 | 9/12 | 講義 | 定期試験の解説 これまで学習した内容の復習 | 解説をノートにまとめる |
| 準備学習 時間外学習 | | | 教科書を熟読する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 医療英語コミュニケーション | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 人間発達学 (Human Development) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 蒔苗詩歌 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 土曜 1.2.3限 |
| 教員の略歴 | 修士(教育学) 専門領域は認知心理学、特別支援教育。大学障害学生支援室や精神科にて勤務。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 生まれてから亡くなるまで、各発達段階での心身の発達と、そこで直面する課題、乗り越える成長過程を扱う。教科書を通しての知識的な学びだけでなく、自身の経験をふりかえったり、家族、友人など、身近な方々へ思いを馳せながら学ぶことができる。身近な方々へ思いを馳せることを通して、自身の自己発見／理解につなげていくことを目指す。発達段階に応じて、視能訓練士としてどのように関わることができるのか、自分の考えを述べたり、他の人と意見を交わしたりすることで、さらに理解を深め説明できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示されるキーワードについて説明することができる。 ・発達段階における、成長過程や課題を検討することができる。 ・視能訓練士業務において、生涯発達の視点をどのように生かすことができるか、考えることができる。 | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小テストおよび小レポート 40% 各日終了時に課題を提示します。次回授業時に小テストによる確認、あるいは小レポート提出を課します。授業で扱った内容について、復習しましょう。また疑似体験や事例検討を通して、より実践的に学びを深めたいと思います。積極的に参加しましょう。 2. 最終試験 60% 各発達段階における成長過程や課題を丸暗記するだけでなく、自身の言葉で整理・説明できることを求めます。視能訓練士を目指すにあたって、生涯発達の知識をどのように生かすことができるか考えてみましょう。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|--------|------|--|--------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月17日 | 講義 | 生涯人間発達論、発達の概念 | 生涯における発達とは、どのようなことでしょうか。 |
| 2 | 9月17日 | 講義 | 乳児期(0～1歳) | 身体発達段階について復習しましょう。 |
| 3 | 9月17日 | 講義 | 幼児前期(1～3歳) | 発達段階に応じた関わり方を考えてみましょう。 |
| 4 | 10月15日 | 講義 | 幼児後期(3～6歳) | 発達段階に応じた関わり方を考えてみましょう。 |
| 5 | 10月15日 | 講義 | 学童期(6～12歳) | ご自身の経験をふりかえってみましょう。 |
| 6 | 10月15日 | 講義 | 思春期(12～18歳) | ご自身の経験をふりかえってみましょう。 |
| 7 | 11月19日 | 講義 | 青年期(18～22歳) | ご自身の経験をふりかえってみましょう。 |
| 8 | 11月19日 | 講義 | 成人前期(22～30歳) | 自己理解と受容の段階を考えてみましょう。 |
| 9 | 11月19日 | 講義 | 成人中期(30～50歳) | 家庭や社会における自己実現を考えてみましょう。 |
| 10 | 12月17日 | 講義 | 成熟期(50～65歳) | 心身の発達について復習しましょう。 |
| 11 | 12月17日 | 講義 | 成人後期(65歳～) | 生と死への受け入れを考えてみましょう。 |
| 12 | 12月17日 | 講義 | 事例検討: 乳児・幼児期 | 視能訓練士としての関わり方を話し合ってみよう。 |
| 13 | 1月28日 | 講義 | 事例検討: 学童・思春期 | 視能訓練士としての関わり方を話し合ってみよう。 |
| 14 | 1月28日 | 講義 | 事例検討: 青年・成人期 | 視能訓練士としての関わり方を話し合ってみよう。 |
| 15 | 1月28日 | 講義 | 試験解説、授業まとめ | 解説を通して、理解を深めましょう。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 人間の発達を学ぶということは、自らの生涯(発達)についても考えることにもなると思います。自分のこれまでを振り返りつつ、これからは見据えながら、授業のテーマを考えてみてください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】学校指定:服部祥子『生涯人間発達学—人間への深い理解と愛情をはぐくむために』、医学書院 毎時間、資料を配布します。各回テーマの参考書も提示しますのでぜひ復習に活用してください。 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|-------|-------|
| 科目名 (英) | 人体の構造と機能 I | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 加藤徳子 |
| | (Structural Function of Human Body I) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | 曜日・時限 | 火曜日2限 |
| 教員の略歴 | 東北大学大学院農学研究科卒、東北文化学園大専門学校非常勤講師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 解剖生理学のみならず細胞・組織学、人体発生学を取り入れて、総合的に形態、機能について講義する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 人体の構造・機能について、解剖生理学を中心に学習し、理解できるようにする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%。試験問題の6割以上を正しく解答できること。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|-------|-------|------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月12日 | 講義 | 細胞の構造・機能、細胞間結合を説明できる。 | プリントとノートによる予習と復習 |
| 2 | 4月19日 | 講義 | 上皮・支持・筋・神経組織および器官系を説明できる。 | 同上 |
| 3 | 4月26日 | 講義 | 心臓の構造と機能、刺激伝導系を説明できる。 | 同上 |
| 4 | 5月10日 | 講義 | 動脈系一肺・体循環、大動脈弓、大動脈を説明できる。 | 同上 |
| 5 | 5月17日 | 講義 | 静脈系一肺・体循環、胎児循環、リンパ系を説明できる。 | 同上 |
| 6 | 5月24日 | 講義 | 消化器の基本構造、口腔、咽頭、食道、胃を説明できる。 | 同上 |
| 7 | 5月31日 | 講義 | 小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜を説明できる。 | 同上 |
| 8 | 6月7日 | 講義 | 鼻腔、咽頭、喉頭、気管・気管支、肺を説明できる。 | 同上 |
| 9 | 6月14日 | 講義 | 腎臓、腎門、腎杯、腎小体、尿細管を説明できる。 | 同上 |
| 10 | 6月21日 | 講義 | 尿路、尿管、膀胱、膀胱三角、尿道を説明できる。 | 同上 |
| 11 | 6月28日 | 講義 | 精巣、精路、卵巣、卵管、子宮、外生殖器を説明できる。 | 同上 |
| 12 | 7月5日 | 講義 | 視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、性腺を説明できる。 | 同上 |
| 13 | 7月12日 | 講義 | 受精と発生、胎児の発生を説明できる。 | 同上 |
| 14 | 8月30日 | 講義 | 聴覚器と平衡感覚器を説明できる。 | 同上 |
| | | 試験 | | |
| 15 | 9月6日 | 解答・講義 | 味覚器、嗅覚器、脳底の脳神経を説明できる。 | 同上 |
| 準備学習 時間外学習 | | | プリント、教科書、参考書を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 「人体解剖学」構造と機能 ミクロからマクロまで F.Hマティーニ 西村書店 「解剖学—人体の構造と機能—」渡辺 皓 サイオ出版 「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-------------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 倫理学 (Ethics) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 高橋英子 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 後期 曜日・時限 火曜日1限 |
| 教員の略歴 | 山形大学医学部助教(S49-53)、東北大学医学部助教(S56-58)、専門学校教員(H1～)薬学博士、医学博士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 倫理とは、(ひととひとの間)の(ことわり(理))を意味している。 現代医療の現場には、遺伝子治療や臓器移植などの最先端の科学技術を用いた医療技術の発展に伴うさまざまな倫理的問題がある。本講義では、まず生命倫理学の基本となるインフォームド・コンセント、パターナリズムなどの生命倫理の主な論点を理解し、それらについての自分なりの見方・考え方を確立する。それをもとにして健康や病気についての理解も深める。講義を主体とするが、ディスカッション・ディベートや小レポートの提出も取り入れる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 倫理学とはいかなる学問であるかを俯瞰し、その特徴ともなっている基本的思考法を学習する。そのうえで、現代医療の現場における具体的な生命倫理の諸問題の内容を理解し、説明できることを目標とする。また、視能訓練士国家試験問題にも対応できる力を身に着ける。さらには、医療人(視能訓練士)としての倫理観を養うことを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|--------|------|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月20日 | 講義 | 教科ガイダンス、道徳と倫理について説明できる。 | 授業内容によっては、レポートを課す |
| 2 | 9月27日 | 講義 | 医療倫理、生命倫理、臨床倫理の成り立ちや違いについて説明できる。 | 講義内容を、整理してまとめること |
| 3 | 10月4日 | 講義 | 「生命倫理とは何か」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 4 | 10月11日 | 講義 | 「健康とは」、「病気とは」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 5 | 10月18日 | 講義 | 「生命倫理学の重要概念(1)」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 6 | 10月25日 | 講義 | 「生命倫理学の重要概念(2)」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 7 | 11月1日 | 講義 | 「生命倫理学の重要概念(3)」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 8 | 11月8日 | 講義 | 「生の始まりに関わる倫理的問題(1)(生殖技術)」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 9 | 11月15日 | 講義 | 「生の始まりに関わる倫理的問題(2)(人工妊娠中絶)」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 10 | 11月22日 | 講義 | 「生の始まりに関わる倫理的問題(3)(遺伝子技術と優生学)」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 11 | 11月29日 | 講義 | 「生の終わりに関わる倫理的問題(1)(移植医療と死の概念)」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 12 | 12月6日 | 講義 | 「生の終わりに関わる倫理的問題(2)(安楽死・尊厳死)」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 13 | 12月13日 | 講義 | 「生の終わりに関わる倫理的問題(3)(ターミナルケア・緩和ケア・ホスピス)」について説明できる | 講義内容を、整理してまとめること |
| 14 | 1月10日 | 講義 | 安楽死・尊厳死について説明できる(映画を鑑賞す | 映画鑑賞後、感想も含めて安楽死・尊厳死に関する自分の考えをまとめて提出すること |
| 15 | 1月24日 | 講義 | 試験内容の解説 | 試験内容を十分に理解すること |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】教科書は特に定めない(講義ごとに資料配布) 参考書:「よく生き、よく死ぬ、ための生命倫理学」ナカニシヤ出版 | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------------|--|---|---------------------|----|-------------|------------------|------|--------------------|
| 科目名 (英) | 病理学 (Pathology) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 大沼 英子 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 後期 月曜日2 曜・時限 |
| 教員の略歴 | 東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、その後病理学、解剖学等関連科目の講義を行っている | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得できる。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学び説明できる。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深め、説明できる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 70% レポートおよび出席状況、授業態度等の定常点30% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 9月26日 | 講義 | 病理学の業務と関係用語を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 2 | 10月3日 | 講義 | 疾患の原因(内因)を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 3 | 10月17日 | 講義 | 疾患の原因(栄養障害)を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 4 | 10月24日 | 講義 | 疾患の原因(物理的外因)を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 5 | 10月31日 | 講義 | 疾患の原因(化学的外因)を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 6 | 11月7日 | 講義 | 疾患の原因(生物学的外因)を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 7 | 11月14日 | 講義 | 細胞障害で起こる現象を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 8 | 11月21日 | 講義 | 代謝障害で起こる現象を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 9 | 11月28日 | 講義 | 循環障害で起こる現象を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 10 | 12月5日 | 講義 | 細胞の修復過程を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 11 | 12月12日 | 講義 | 炎症で起こる現象を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 12 | 12月19日 | 講義 | 疫に関わる細胞とシステムを説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 13 | 1月16日 | 講義 | 疫異常によって起こる疾患を説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 14 | 1月23日 | 講義 | 創傷とはどのようなものかを説明できる | | | 必要に応じて確認 | | |
| 15 | 2月6日 | 講義 | 試験解説・総括 | | | 必要に応じて確認 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 解剖学・生理学など関連する内容について、必要に応じて確認しながら理解を深めてほしい | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | | | |
| わかりやすい病理学 改訂6版 南江堂 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------------|--|--|----------------------|----|-------------|------------------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 医学概論 (Intoroduction to Medicine) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 大沼 英子 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 月曜日2 曜限 |
| 教員の略歴 | 東北大学歯学部卒業後、同大大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理、病理診断に関して隣接医学を学んだ。その後病理学、解剖学等関連科目の講義を行っている | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深める。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 70% レポートおよび出席状況、授業態度等の定常点30% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 4月11日 | 講義 | 医学の定義と使命・医学の歴史を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 2 | 4月18日 | 講義 | 医学の倫理を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 3 | 4月25日 | 講義 | 体の構成する細胞、臓器を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 4 | 5月9日 | 講義 | 各臓器の機能を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 5 | 5月16日 | 講義 | 主要な症状とその原因を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 6 | 5月23日 | 講義 | 主要な疾患と対応を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 7 | 5月30日 | 講義 | 主要な疾患と対応を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 8 | 6月6日 | 講義 | 主要な疾患と対応を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 9 | 6月12日 | 講義 | 人口統計の指標と現状を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 10 | 6月20日 | 講義 | 社会保障制度と医療保障を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 11 | 6月27日 | 講義 | 医療関係職とその現状を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 12 | 7月4日 | 講義 | 保健医療対策を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 13 | 7月11日 | 講義 | 保健医療対策を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 14 | 8月29日 | 講義 | 医療関係法規を説明できる | | | 講義内容についてノートにまとめる | | |
| 15 | 9月12日 | 講義 | 解説に関してノートにまとめる | | | 解説に関してノートにまとめる | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 解剖学・生理学・公衆衛生学など関連する内容について、必要に応じて確認しながら理解を深める | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | | | |
| 医学概論 改訂6版 中外医学社 | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|---------------|-----------|
| 科目名 (英) | 視覚生理学 I | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 宮 |
| | (Visual Physiology I) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 | 後期 水2限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | H13みやぎ眼科 H30北毛保健生活協同組合北毛病院 R1東北大学付属病院在職中 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 視覚には大きく分けて光覚、色覚、形態覚、視野といった要素がある。 今後眼について学ぶうえで、それぞれの要素の概念や関係する用語を理解する必要がある。 この授業ではこれら視覚に関する生理を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①視覚の発生について理解、説明できる。 ②視覚の各要素の正常について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(筆記)100% | | | | | | |

| 授業計画・内容授業計画・内容 | | | | | | | |
|----------------|--------|-------|-----------------------------------|------|------|--------------|--|
| 回数 | 日程日程 | 授業形態 | 学習内容 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | 9月14日 | 講義 | 形態覚(視力) 視力の定義を説明出来る。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 2 | 9月21日 | 講義 | 形態覚(視力)－視力の種類を理解する。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 3 | 9月28日 | 講義 | 形態覚(視力)－影響する因子を理解する。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 4 | 10月5日 | 講義 | 光覚－錐体・杆体を説明出来る。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 5 | 10月12日 | 講義 | 光覚－比視感度、順応に関して説明出来る。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 6 | 10月19日 | 講義 | 色覚－色の特性に関して説明できる。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 7 | 10月26日 | 講義 | 色覚－色覚異常に関して説明出来る。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 8 | 11月2日 | 講義 | 色覚－検査の種類を説明出来る。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 9 | 11月9日 | 講義 | 視野－視野の概念を説明出来る、 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 10 | 11月16日 | 講義 | 視野－測定方法を説明出来る。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 11 | 11月30日 | 講義 | 視野－各疾患と視野異常を説明出来る。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 12 | 12月7日 | 講義 | 電気生理－ERGの原理・方法・結果を説明出来る。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 13 | 12月14日 | 講義 | 電気生理－VEPの原理・方法・結果を説明出来る。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 14 | 1月11日 | 講義 | 電気生理－EOG、ENGの原理・方法・結果を説明出来るようになる。 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 15 | 1月25日 | 講義 | 試験解説 | | 講義内容 | についてノートにまとめる | |
| 準備学習 | | 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | | |
| 視能学第二版 文光堂 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-------------|------|------------------------------|
| 科目名 (英) | 視覚生理学実習 (Practical Training in Optical Physiology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 畑山りお・ 吉田菜央/ 木皿滋子 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 実習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 後期 水・木曜日 曜日・時限 3・4限 |
| 教員の略歴 | 畑山・吉田:仙台医健・スポーツ専門学校 視能訓練科 教員 視能訓練士 木皿滋子:S61帝京大学付属 市原病院 H10古河中央眼科在職中 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 視能矯正学実習で学んだ知識をもとに、乱視表を使用した乱視矯正を行う。 視覚生理学で学んだ知識をもとに、視野検査・電気生理学検査(VEP・EOG・ERG)の手技を学ぶ。 また、医療従事者としての身だしなみ・言葉づかい・患者様とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①他覚的屈折値を参考にした、球面矯正が出来るようになる。 ②球面矯正から、乱視表を使用した乱視矯正が出来るようになる。 ③医療においての、衛生・不衛生をきちんと理解出来るようになる。 ④電気生理学検査の手技および結果の見方を理解出来るようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|---------|--------|-------|---|---|-------------------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | 9月14日 | 実習 | 球面矯正…矯正視力を測定できる。 | VEP…視覚誘発電位の測定原理を理解し説明できる。基本的な測定方法を実施できる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 2 | | | 乱視について復習し、理解できる。 | | | |
| 3 | 9月21日 | 講義・実習 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 4 | | | | | | |
| 5 | 9月22日 | 実習 | VEP…視覚誘発電位の測定原理を理解し説明できる。基本的な測定方法を実施できる。 | 球面矯正…矯正視力を測定できる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 6 | | | 乱視について復習し、理解できる。 | | | |
| 7 | 9月28日 | 実習 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 8 | | | | | | |
| 9 | 9月29日 | 講義・実習 | 他覚的屈折検査…オートレフラクトメータを使用し他覚的屈折値を測定できる。 | EOG…眼球電位図の検査原理を理解し説明できる。衝動性・滑動性眼球運動の波形を測定できる。 | B班: VEP・EOGレポート課題 | |
| 10 | | | | | | |
| 11 | 10月5日 | 実習 | EOG…眼球電位図の検査原理を理解し説明できる。衝動性・滑動性眼球運動の波形を測定できる。 | 他覚的屈折検査…オートレフラクトメータを使用し他覚的屈折値を測定できる。 | A班: VEP・EOGレポート課題 | |
| 12 | | | | | | |
| 13 | 10月12日 | 講義・実習 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 14 | | | | | | |
| 15 | 10月19日 | 実習 | 乱視表…検査原理および測定方法を理解できる。 | | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 16 | | | | | | |
| 17 | 10月26日 | 実習 | 乱視表…雲霧レンズを算出することができる。 | ERG…検査機器の正しい取り扱いができる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 18 | | | 乱視表の見え方と乱視軸との関係を理解できる。 | 点眼薬を適切に点眼できる | | |
| 19 | 11月2日 | 実習 | ERG…検査機器の正しい取り扱いができる。 | 乱視表…雲霧レンズを算出することができる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 20 | | | 点眼薬を適切に点眼できる | 乱視表の見え方と乱視軸との関係を理解できる。 | | |
| 21 | 11月9日 | 実習 | 乱視表…乱視軸の微調整、球面レンズの微調整ができる。 | ERG…清潔に配慮して検査を実践できる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 22 | | | 通して乱視矯正できる。 | 波形のアーチファクトのチェックができる。 | | |
| 23 | 11月16日 | 実習 | ERG…清潔に配慮して検査を実践できる。 | 乱視表…乱視軸の微調整、球面レンズの微調整ができる。 | ERGLレポート課題 乱視表レポート課題 | |
| 24 | | | 波形のアーチファクトのチェックができる。 | 通して乱視矯正できる。 | | |
| 25 | 11月30日 | 講義・実習 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 26 | | | | | | |
| 27 | 12月1日 | 講義・実習 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。 | 講義内容に関して、ノートにまとめる。 | |
| 28 | | | | | | |
| 29 | 12月14日 | 講義 | 定期試験解説 | | 試験解説に関して、ノートにまとめる。 | |
| 30 | | | 試験解説の内容を理解できる。 | | | |

準備学習 時間外学習

積極的に自主練習を行う。

【使用教科書・教材・参考書】

目でみる視力・屈折検査の進め方 理解を深めよう視力検査屈折検査 眼科検査法ハンドブック第4版

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-------------|------|------------------------|
| 科目名 (英) | 視器の解剖生理学 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 溝口二郎 |
| | (Anatomical Physiology of Visual Organs) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 45 (3) | 開講区分 | 前期/木曜3 限後期/木 曜3限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 2011年4月開講以来、継続して視器の解剖生理学を担当。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 視覚器の解剖生理学は理解することが肝要であるので、解剖組織図で理解を深め、生体内での詳細な視覚器構造と機能を学習させる。後半にブタの眼球解剖実習を取り入れて、生体の視覚器を解剖・観察することにより、専門分野に対する積極的な取り組み姿勢の確立をする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 視覚器の構造・機能および生理を、細胞学・組織学・発生学の基礎の上に、系統的に理解できるようにする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 確認試験50%、定期試験50%。2つの試験問題の6割以上を正しく解答できること。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|-------|-----------------------|------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 6/2 | 講義 | 人体の構成: 総論、各論—細胞を理解する | プリントとノートによる予習と復習 |
| 2 | 6/9 | 講義 | 上皮・結合・筋・骨・神経組織、皮膚を理解する | 同上 |
| 3 | 6/16 | 講義 | 解剖学用語: 人体の区分・部位、切断面を理解する | 同上 |
| 4 | 6/23 | 講義 | 眼球の構造 総論: 眼球軸と視軸を理解する | 同上 |
| 5 | 6/30 | 講義 | 眼球の構造 各論: 強膜、シユレム管を理解する | 同上 |
| 6 | 7/7 | 講義 | 角膜の5層構造、角膜構造図をする理解 | 同上 |
| 7 | 7/14 | 講義 | 脈絡膜の4層構造、ぶどう膜を理解する | 同上 |
| 8 | 7/21 | 講義 | 毛様体5層構造、毛様体筋を理解する | 同上 |
| 9 | 9/1 | 講義 | 虹彩、瞳孔括約筋・散大筋、色素上皮を理解する | 同上 |
| 10 | 9/8 | 講義 | 網膜—視神経円板、黄斑、中心窩を理解する | 同上 |
| 11 | 9/15 | 講義 | 杆状体・錐状体・双極・水平・視神経節細胞を理解する | 同上 |
| 12 | 9/22 | 講義 | 水晶体、毛様体小帯、硝子体、眼房水を理解する | 同上 |
| 13 | 9/29 | 講義 | 眼球の脈管: 網膜・毛様体血管系を理解する | 同上 |
| 14 | 10/6 | 講義 | 眼球の神経: 視神経、長毛様体神経を理解する | 同上 |
| 15 | 10/13 | 試験 | 確認試験 | |
| 16 | 10/20 | 解答・講義 | 短毛様体神経、眼球以外視覚器神経を理解する | プリントとノートによる予習と復習 |
| 17 | 10/27 | 講義 | 上眼瞼挙筋、眼輪筋、瞼板筋、瞼板腺を理解する | 同上 |
| 18 | 11/10 | 講義 | 眼瞼結膜、眼球結膜、結膜円蓋を理解する | 同上 |
| 19 | 11/17 | 講義 | 涙器: 涙腺、涙道、鼻涙管、ハスナー弁を理解する | 同上 |
| 20 | 12/1 | 講義 | 外眼筋: 外眼筋の作用と神経支配を理解する | 同上 |
| 21 | 12/8 | 講義 | 眼窩: 構成骨、視神経管、上・下眼窩裂を理解する | 同上 |
| 22 | 12/15 | 講義 | 視神経: 乳頭、視交叉、網膜中心動静脈を理解する | 同上 |
| 23 | 12/22 | 講義 | 覚路: 視索、外側膝状体、視放線、内包、鳥距溝を理解する | 同上 |
| 24 | 1/12 | 試験 | 期末試験 | |
| 25 | 1/19 | 解答・実習 | ブタの眼球解剖実習: 新鮮・化学固定眼球 | 試験解説 |
| 準備学習 時間外学習 | | プリント、教科書、参考書を予習・復習する。 | | |

「現代の眼科学」 監修 所 敬 金原出版
「人体解剖学」構造と機能 ミクロからマクロまで F.Hマティーニ 西村書店
「ネッター解剖学アトラス」 訳 相磯貞和 南江堂

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|---------------|------------|
| 科目名 (英) | 医用電子工学概論 (Medical Engineering) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 山田昭博 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 金曜4限 |
| 教員の略歴 | 平成27年東北大学大学院医工学研究科修了、博士(医工学)。平成28年東北大学 加齢医学研究所の助教となり、現在に至る。主な研究テーマは、小児用人工心臓に関する研究。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 医療における診断は、体から発するシグナルをどのように捉え、理解するかが重要となる。また、臨床現場は、多くの医用工学機械が使用されている。測定原理や、仕組みを理解することでより検査結果やその評価をより深いものにする。最低限の工学知識を習得し、一般診療測定器機および眼科医療器械について学習する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 電子工学の一般知識を習得し、簡単な電気回路計算を行うことができる。一般的な医療機器、診療測定器機、眼科医療器械の測定原理について理解することができ、他者に説明することができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | レポート提出および、授業内評価による。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|------|------|------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/13 | 講義 | 直流電気回路を説明できる | 講義内容についてノートにまとめる |
| 2 | 5/20 | 講義 | 磁石および磁場を説明できる | 講義内容についてノートにまとめる |
| 3 | 6/3 | 講義 | 静電気を説明できる | 講義内容についてノートにまとめる |
| 4 | 6/17 | 講義 | 交流電気回路を説明できる | 講義内容についてノートにまとめる |
| 5 | 6/24 | 講義 | エレクトロニクスおよび電子計測を説明できる | 講義内容についてノートにまとめる |
| 6 | 7/1 | 講義 | 血圧計・心電図などの診断機器の原理を説明できる | 講義内容についてノートにまとめる |
| 7 | 7/8 | 講義 | 網膜電図などの眼科系機器、医療機器の安全対策を説明できる | 授業後、レポート課題を提示 |
| 8 | 7/22 | 講義 | レポート内容を解説し、理解する | 講義内容についてノートにまとめる |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 教科書:看護・医療技術者のためのたのしい電気・電子工学(曾根福保・加藤穰治 著、日本理工出版会 刊)、講義資料を配布 参考書:眼科検査法ハンドブック(小口 芳久、大月 洋、沢 充 著、医学書院 刊)MEの基礎知識と安全管理(日本生体医工学会ME技術教育委員会、南江堂) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|---------------|-------------|
| 科目名 (英) | 公衆衛生学 (Public Hygiene) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 草間太郎 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 金曜日1限 |
| 教員の略歴 | 東北大学大学院歯学研究科 助教(歯科医師・歯学博士) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 「健康とは何か」を理解し、健康を守るための方法として特に最初の段階である一次予防を理解することは、保健医療に携わるものとして必要不可欠な共通言語である。そのため公衆衛生学は各科目の根幹をなす学問ともいえる。概念を理解し具体的な実践のイメージが持てる学生を育てる授業とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康の概念の理解。 ・予防医学の概念の理解。 ・具体的な公衆衛生活動の理解。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト90% 2) 出席数10% ※具体的な達成の目安: 理想的な達成レベルの目安=試験で80%以上の得点、標準的な達成レベルの目安=試験で70点以上の得点 ※準備学習、時間外学習の評価: これらに関する授業中の質疑応答による。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-----------------|-------|---------|--------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月8日 | 双方向遠隔授業 | 公衆衛生の歴史を理解する。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 2 | 4月15日 | 双方向遠隔授業 | 健康の概念について説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 3 | 4月22日 | 双方向遠隔授業 | 感染症の性質を説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 4 | 5月13日 | 双方向遠隔授業 | 環境衛生の概念を説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 5 | 5月20日 | 双方向遠隔授業 | 食中毒や食品衛生について説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 6 | 5月27日 | 双方向遠隔授業 | 母児保健活動について説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 7 | 6月3日 | 双方向遠隔授業 | 学校保健活動について説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 8 | 6月17日 | 双方向遠隔授業 | 産業保健について説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 9 | 6月24日 | 双方向遠隔授業 | 成人保健について説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 10 | 7月1日 | 双方向遠隔授業 | 高齢者の保健施策について説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 11 | 7月8日 | 双方向遠隔授業 | 精神保健について説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 12 | 7月15日 | 双方向遠隔授業 | 行政の仕組みについて説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 13 | 7月22日 | 講義 | 疫学概念を説明できる。 | 教科書の該当範囲の精読 |
| 14 | 9月2日 | 講義 | これまでの講義の概要を説明できる。 | 練習問題の解きなおし。 |
| | 9月9日 | 試験 | | |
| 15 | 9月16日 | 講義 | 定期試験解説 | 解説をノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| シンプル衛生公衆衛生学2020 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|---------------|------------|
| 科目名 (英) | 保育 (Nursery) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 齋藤永子 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 火曜3限 |
| 教員の略歴 | 元・聖和短大保育科教員(臨床心理・障害児保育等)、現・POP子育て相談室主宰、臨床発達心理士、保育スーパーバイザー | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心の発達過程を理解できる。 ・児童文化財について理解し、実際に触れて説明できる。 ・子どもの対応のポイントを説明できる。 ・子どもに関わる社会的な問題について説明できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 子どもの特性を理解し、適切にかかわることができる。 また、子どもについての社会的な問題に関心を持ち、説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1.定期試験 (50%) 2.課題レポート (30%) 3.小レポート (10%) 4.研究発表 (10%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|----------------------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/20 | 講義・グループワーク | オリエンテーション 自分の子ども時代を思い出すことができる。 | 小レポート① |
| 2 | 9/27 | 講義 | 児童文化財について(1) 定義・意義を理解できる。 | |
| 3 | 10/4 | 講義 | 児童文化財について(2) 絵本・紙芝居などを理解できる | 小レポート② |
| 4 | 10/11 | 講義 | 児童文化財について(3) 遊びについて理解できる | 小レポート③ |
| 5 | 10/18 | 講義 | 子どもの心の発達(1) 感情の発達について理解できる。 | |
| 6 | 10/25 | 講義 | 子どもの心の発達(2) 認知の発達について理解できる。 | |
| 7 | 11/1 | 講義 | 子どもの心の発達(3) 人間関係の発達について理解できる。 | |
| 8 | 11/8 | 講義・グループワーク | 子どもの心の発達(4) 家族のかかわりについて理解できる | 小レポート④ |
| 9 | 11/15 | 講義・グループワーク | 子どもの心の発達(5) 対応のポイントについて理解できる。 | 小レポート⑤ |
| 10 | 11/22 | 講義 | 保育の制度(1) こども園などの施設について学ぶ。 | |
| 11 | 11/29 | 講義 | 保育の制度(2) 子育て支援について理解できる。 | 小レポート⑥ |
| 12 | 12/6 | 講義 | 絵本よみきかせ・研究発表を行う。 | 研究発表準備 |
| 13 | 12/13 | 講義・グループワーク | 子どもの相談事例を検討することができる。 | 小レポート⑦ |
| 14 | 1/10 | 講義 | 子どもと社会について、今後の課題について理解できる。 | 小レポート⑧ |
| 15 | 1/24 | 解説 | 定期試験解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 絵本を読む、子どもに関する新聞記事をよむ | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 資料配布 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|-----------------|
| 科目名 (英) | 社会福祉概論 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 黒沢麻美 |
| | (Social Welfare) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 後期 火曜日 2限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 介護福祉士として高齢者福祉施設にて5年間勤務、その後介護福祉士養成校にて教員として勤務し高齢者福祉をベースに教育・指導する。(H22～) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 社会福祉の理念と意義をはじめ、社会福祉の歴史や概念などを学び、現代社会の福祉関連諸問題について広く学習する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1.現代における社会福祉の理念・意義及び、社会福祉関係諸法、福祉の歴史や対象などの概要を理解できる。 2.社会福祉ニーズとは何か、また、その援助方法について理解する。 3.福祉を学ぶ必要性について自ら考えることができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 80%、平常点(授業の取り組み状況・確認テスト) 20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------|--------|------|--|-----------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月20日 | 講義 | オリエンテーション、社会福祉の対象と範囲を理解し説明できる。 | 社会福祉とは何かについて整理する |
| 2 | 9月27日 | 講義 | 社会福祉の価値観について学び説明できる。 | 社会福祉の考え方について整理する |
| 3 | 10月4日 | 講義 | 社会福祉の歴史的展開(欧米)を学び説明できる。 | 欧米における社会福祉の関連問題について整理する |
| 4 | 10月11日 | 講義 | 社会福祉の歴史的展開(日本)～昭和初期を学び説明できる。 | 日本における社会福祉の歴史について整理する |
| 5 | 10月18日 | 講義 | 社会福祉の歴史的展開(日本)戦後～現代を学び説明できる。 | 日本における社会福祉の歴史について整理する |
| 6 | 10月25日 | 講義 | 社会福祉の法制度を学び説明できる。 | 社会福祉関連法について講義資料や福祉六法等で確認する |
| 7 | 11月1日 | 講義 | 低所得者を対象としたサービスを学び説明できる。 | 生活保護法の目的条文を確認する |
| 8 | 11月8日 | 講義 | 子どもと家族を対象とした福祉サービスを学び説明できる。 | 児童福祉法を確認し、児童を取り巻く福祉的課題について概観する |
| 9 | 11月15日 | 講義 | 障害者を対象とした福祉サービスを学び説明できる。 | 障害とは何かを考えとともに障害者福祉を支えるしくみについて概観する |
| 10 | 11月22日 | 講義 | 高齢者を対象とした福祉サービスを学び説明できる。 | 高齢者を取り巻く状況についてや法制度について概観する |
| 11 | 11月29日 | 講義 | 社会福祉領域で活躍する専門職を学び説明できる。 | 各種領域で実際に働く専門職について整理する |
| 12 | 12月6日 | 講義 | 社会福祉の対象へ対する連携のあり方について学び、説明できる。 | 地域福祉を含め、対象を取り巻く社会資源等について整理する |
| 13 | 12月13日 | 講義 | 社会保障制度の仕組みとサービスを学び説明できる。 | 社会保障制度の仕組みについて概観する |
| 14 | 1月10日 | 講義 | 社会福祉の支援と実際について学び説明できる。 | 現代の社会福祉に関する諸問題について考える |
| | | 試験 | | |
| 15 | 1月24日 | 講義 | 試験解説 | 解説内容をノートにまとめる |
| 準備学習 時間外学習 | | | 社会福祉に関心を持ち、ニュースや新聞・参考書等を活用し自主学習を行ってほしい | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 参考書:社会福祉概論、プリント配布 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|-----------------------------------|----------|----|-------------|-------------|------|--------------------|
| 科目名 (英) | 視能矯正学概論 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 徳山りお/吉田菜央 |
| | (Orthoptics) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期/木曜1限 後期/水曜3限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 視能矯正の枠組み理論を理解する。両眼視機能の発達を基本理論を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 視覚の発達及び両眼視機能の発達の基本理論を理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:筆記(70%) 作成物 :提出(30%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|-------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 2月20日 | 講義 | オリエンテーション・四則計算ができる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 2月20日 | 講義 | 数量(単位)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 3 | 2月20日 | 講義 | レンズ1(屈折)の作用を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 4 | 2月20日 | 講義 | レンズ2(偏光)の作用を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 5 | 2月21日 | 講義 | 視覚1(形態覚・光覚・色覚)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 6 | 2月21日 | 講義 | 視覚2(視角、視力)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 7 | 2月24日 | 講義 | 視覚3(幼年型視覚)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 8 | 2月24日 | 講義 | 総括1(講義1回～7回の確認試験)を行う。 | 試験内容をノートにまとめる。 |
| 9 | 2月24日 | 講義 | 総括1(確認試験)の解答、解説を行う。 | 解説をノートにまとめる。 |
| 10 | 2月24日 | 講義 | 両眼視機能1(用語)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 11 | 2月27日 | 講義 | 総括2(講義10回～12回の演習試験)を行う。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 12 | 2月27日 | 講義 | 試験解説 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 13 | 2月27日 | 講義 | 両眼視機能2(視野と眼底図)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 14 | 2月27日 | 講義 | 両眼視機能3(像のとらえ方)を理解できる | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 15 | 2月28日 | 講義 | 眼位(運動面1)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 16 | 2月28日 | 講義 | 眼位(運動面2)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 17 | 2月28日 | 講義 | 総括3(講義15回～16回の確認試験)を行う。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 18 | 2月28日 | 講義 | 総括3(確認試験)の解答、解説を行う。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 19 | 3月1日 | 講義 | 両眼視の生理1(両眼視1)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 20 | 3月1日 | 講義 | 両眼視の生理1(複視2)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 21 | 3月1日 | 講義 | 両眼視の生理1(複視3)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 22 | 3月1日 | 講義 | 両眼視の生理1(混乱視)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 23 | 3月2日 | 講義 | 両眼視の生理1の図を描くことができる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 24 | 3月2日 | 講義 | 両眼視の生理1の図を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 25 | 3月2日 | 講義 | 両眼視の生理2(視空間)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 26 | 3月2日 | 講義 | 両眼視の生理2(網膜対応1)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 27 | 3月3日 | 講義 | 両眼視の生理2(網膜対応2)を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 28 | 3月3日 | 講義 | 総括4(講義19回～27回の確認試験)を行う。 | 試験内容をノートにまとめる。 |
| 29 | 3月3日 | 講義 | 総括4(確認試験)の解答、解説を行う。 | 解説をノートにまとめる。 |
| 30 | 3月7日 | 講義 | 試験解説 | 解説をノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 教科書・配布資料を熟読すること | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---------------------------------|----------|----|-------------|-------------|------|-----------------|
| 科目名 (英) | 基礎視能矯正学 (Basic Orthoptics) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 畑山りお |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 水曜日 3限 |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼球運動と両眼視機能の基礎を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 視能矯正を展開して行く上で基盤となる眼位、眼球運動を理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:筆記(70%) 作成物 :提出(30%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月6日 | 講義 | オリエンテーション・眼解剖(眼球断面図)の各部の名称を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 4月13日 | 講義 | 外眼筋の解剖と機能を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 3 | 4月27日 | 講義 | 外眼筋の作用を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 4 | 5月11日 | 講義 | 両眼眼球運動の種類を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 5 | 5月18日 | 講義 | 両眼眼球運動の作用を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 6 | 5月25日 | 講義 | 総括1(講義1回～5回の確認試験)を行う。 | 試験内容をノートにまとめる。 |
| 7 | 6月1日 | 講義 | 総括1(確認試験)の解答、解説を行う。 | 解説をノートにまとめる。 |
| 8 | 6月8日 | 講義 | 輻輳、開散運動を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 9 | 6月22日 | 講義 | 調節を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 10 | 6月29日 | 講義 | AC/Aを理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 11 | 7月6日 | 講義 | AC/A測定法を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 12 | 7月13日 | 講義 | 総括2(講義8回～11回の確認試験)を行う。 | 試験内容をノートにまとめる。 |
| 13 | 7月20日 | 講義 | 総括2(確認試験)の解答、解説を行う。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 14 | 8月31日 | 講義 | 総括3(講義1回～13回)重要点を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 15 | 9月14日 | 講義 | 試験解説 | 解説をノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 教科書および配布資料を熟読する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|---------------|-------------|
| 科目名 (英) | 生理光学 I (Optic Physiology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 成田周平 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 | 後期 水曜日2限 |
| 教員の略歴 | H28ベストメディカルサービス R2ひでゆき眼科クリニック在職中 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼に関して学んでいく上で、光学を理解することは不可欠である。 眼科において最も基本的な検査である視力検査や屈折検査を理解する上においても、光学的な知識が必要になる。 この講義では眼光学の基礎となる用語や概念を学ぶ。 また、国家試験において頻出である生理光学分野の計算問題の解き方を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①生理光学に関する用語や概念を理解する。 ②光学に関する計算問題を解けるようにする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(筆記)100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|--------|------|-----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月21日 | 講義 | 視力に関する計算ができるようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 2 | 9月28日 | 講義 | 光の屈折について説明出来るようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 3 | 10月5日 | 講義 | レンズの性質について説明出来るようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 4 | 10月12日 | 講義 | 近視・遠視について説明出来るようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 5 | 10月19日 | 講義 | 乱視について説明出来るようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 6 | 10月26日 | 講義 | パワークロスが書けるようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 7 | 11月2日 | 講義 | スタームのコノイドを書けるようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 8 | 11月9日 | 講義 | 遠点・近点・調節力の計算ができるようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 9 | 11月16日 | 講義 | 明視域の計算ができるようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 10 | 11月30日 | 講義 | プリズムについて説明出来るようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 11 | 12月7日 | 講義 | 輻輳について説明出来るようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 12 | 12月14日 | 講義 | 眼鏡・コンタクトレンズの相違点を説明出来るようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 13 | 12月21日 | 講義 | 倍率・反射鏡の計算ができるようになる。 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 14 | 1月11日 | 講義 | 演習問題 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 15 | 1月25日 | 講義 | 試験解説 | 講義内容についてノートにまとめる |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------|-------------|-------------|------|-----------------|
| 科目名 (英) | 視能矯正学実習 (Minor Correctipn Study Practice) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 畑山りお・ 吉田菜央 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義・実習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 前期 火3限 後期 |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼科診療を行う上で、屈折検査、視力検査は全ての検査において基本となる検査である。生理光学、解剖学、物理学、基礎視能矯正学等で学んだ内容を理解した上で、視力検査の基本的な手技を習得する。また、医療従事者としての身だしなみ・言葉づかい・患者様とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①瞳孔間距離が測定出来るようになる。 ②裸眼および矯正視力が測定出来るようになる。 ③屈折異常(正視、遠視、近視、乱視)について説明出来るようになる。 ④レンズメータ(オート、マニュアル)にてレンズ度数を測定出来るようになる。 ⑤色覚検査(仮性同色表、色相配列検査、アノマロスコープ)の測定方法、結果の見方を理解出来るようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|---|---------------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月6日 | 講義 | ・オリエンテーション…科目の概要・評価方法を理解する。 | 視力(形態覚)について予習する。 |
| 2 | 4月6日 | | 視力(形態覚)について学ぶ 4つの尺度について説明できる。 | 視力(形態覚)について予習する。 |
| 3 | 4月13日 | 講義 | ・視力検査体験を通して、自らの屈折状態を知る。 | 視力(形態覚)についてノートにまとめる。 |
| 4 | 4月13日 | | 視力の種類について説明できる。視力検査法について説明できる。 | 視力(形態覚)についてノートにまとめる。 |
| 5 | 4月27日 | 実習 | 瞳孔間距離測定を学ぶ。三田式万能メジャー、PDメータ(NIDEK PM-600)、オートレフラクメータを使用し瞳孔間距離測定を行なう。正確な測定結果を出す事ができる。 | 瞳孔間距離測定レポート課題 |
| 6 | 4月27日 | | | |
| 7 | 5月11日 | 実習 | 視力検査①…裸眼視力が測定できる。 | 裸眼視力測定についてノートにまとめる。 |
| 8 | 5月11日 | | | |
| 9 | 5月18日 | 実習 | 視力検査②…裸眼視力0.1以下の測定が出来る。裸眼視力から考えられることを説明できる。 | 裸眼視力測定および裸眼視力から考えられることをノートにまとめる。 |
| 10 | 5月18日 | | | |
| 11 | 5月25日 | 実習 | 視力検査③…球面矯正を学ぶ 屈折異常に適したレンズを選択することができる。 | 球面矯正についてノートにまとめる。 |
| 12 | 5月25日 | | | |
| 13 | 6月1日 | 実習 | 視力検査④…球面矯正を学ぶ 正しいレンズ交換ができる。 正しい球面レンズの矯正ができる。 | 球面矯正についてノートにまとめる。 |
| 14 | 6月1日 | | | |
| 15 | 6月8日 | 実習 | 視力検査⑤…球面矯正を学ぶ 検査結果と必要事項を正しく記載できる。 | 視力検査レポート課題 |
| 16 | 6月8日 | | | |
| 17 | 6月22日 | 実習 | レンズメータの使用方法を学ぶ。マニュアル式レンズメータの使用方法を理解し、球面レンズ、トーリックレンズの度数測定ができる。 | レンズメータレポート課題 |
| 18 | 6月22日 | | | |
| 19 | 6月29日 | 実習 | 色覚検査①…仮性同色表(石原色覚検査表・標準色覚検査表・東京医大式色覚検査表)の使用方法を理解し、正しく実施できる。 | 色覚検査についてノートにまとめる。 |
| 20 | 6月29日 | | | |
| 21 | 7月6日 | 実習 | 色覚検査②…色相配列法(Panel D-15・The Farnsworth-Munsell 100Hue Test)の使用法を理解し、正しく実施できる。 | 色覚検査についてノートにまとめる。 |
| 22 | 7月6日 | | | |
| 23 | 7月13日 | 実習 | 色覚検査③…アノマロスコープの使用法を理解し、操作できると共に検査結果を正しく評価できる。 | 色覚検査レポート課題 |
| 24 | 7月13日 | | | |
| 25 | 7月20日 | 実習 | 確認試験 1回～24回までの内容から試験を行う。 | 確認試験についてノートにまとめる。 |
| 26 | 7月20日 | | 実技試験について理解する。 | |
| 27 | 8月31日 | 実習 | 総括 1回～26回までの内容を振り返る。 | 今まで行った実習の総まとめ。 授業配布資料およびレポートを持参する。 |
| 28 | 8月31日 | | | |
| 29 | 9月14日 | 講義 | 定期試験解説 | 解説をノートにまとめる。 |
| 30 | 9月14日 | | 試験解説の内容を理解できる。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 積極的に自主練習をする。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

|

| | | | | | | |
|------------|---|----------|-------|-------------|-----------|---------------|
| 科目名 (英) | 眼科薬理学 I | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 |
| | (Pharmacology I) | 授業 形態 | 講義・実習 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | |
| 教員の略歴 | 薬学博士(S49取得) 帝京大学薬学部教授(H18-28) | | | | | |
| 授業の学習内容 | 医療の現場において視能訓練士は医薬品や、試薬を使用する機会も多い。この科目では臨床で用いて概略的に学ぶことを目的とする。医薬品の位置付け、関連する法律、点眼薬の実習、医薬品各機作(どのようにして効果を現わすのか)、疾患への適応、そして副作用について学ぶ。医薬品情報学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | ①医薬品とはどのようなものかを理解でき、説明できる。②コメディカルが理解を必要とする医薬品への適応、副作用について説明できる。③書籍(医療等に関する)を1冊読み、読後感想文を作成できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 期末の定期試験80点、実習10点、医療に関する新書の読後レポート10点、その他出席状況、受講態度も評価する。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|-------|-------|---------------------------------|----------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習 |
| 1 | 9/20 | 講義 | 薬の作用(その1)を理解できる。 | 教科書p1~14を熟読する。 |
| 2 | 9/27 | 講義・演習 | 薬の作用(その2)を理解できる。 | 教科書p15~35、レポート作成 |
| 3 | 10/4 | 講義・演習 | 医薬品情報・医療用添付文書—その調べ方とその内容を理解できる。 | プリント配布、インターネット検索 |
| 4 | 10/11 | 講義・演習 | 自律神経系に作用する薬(その1)を理解できる。 | 教科書p37~62を熟読する |
| 5 | 10/18 | 講義・演習 | 自律神経系に作用する薬(その2)を理解できる。 | 教科書p63~84を熟読する |
| 6 | 10/25 | 講義・演習 | 中枢神経系の疾患の薬(その1)を理解できる。 | 教科書p103~131を熟読する |
| 7 | 11/1 | 講義・演習 | 中枢神経系の疾患の薬(その2)を理解できる。 | 教科書p131~148を熟読する |
| 8 | 11/8 | 講義・演習 | 中枢神経系の疾患の薬(その3)を理解できる。 | 教科書p149~177を熟読する |
| 9 | 11/15 | 講義・演習 | 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬を理解できる。 | 教科書p89~101を熟読する |
| 10 | 11/22 | 講義・演習 | 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬を理解できる。 | 教科書p367~377を熟読する |
| 11 | 11/29 | 講義・演習 | 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬を理解できる。 | 教科書p378~397を熟読する |
| 12 | 12/6 | 実習 | 散瞳薬・縮瞳薬の薬理について理解できる。 | プリント配布 |
| 13 | 12/13 | 実習 | 散瞳薬・縮瞳薬の薬理について理解できる。 | プリント配布 |
| 14 | 1/17 | 講義・演習 | 抗菌薬・抗ウイルス薬・抗悪性腫瘍薬について理解できる。/演習 | 教科書p409~475を熟読する |
| 15 | 1/31 | 講義・演習 | 試験解説を行う。 | プリント配布/解説内容をノートにまとめる |
| 準備学習 時間外学習 | | | 教科書を熟読すること。 | |

【使用教科書・教材・参考書】教科書: 櫻田 司編集、「コンパス薬理学」、南江堂、2011。
演習: 安原一・小口勝司編、「わかりやすい薬理学第3版 整理ノート ポイントと確認問題」、ノーベルヒロコ

江戸清人

後期
火曜日
3限

いられる医薬品一般につ
論、特に、医薬品の作用
の種類、調査法についても

100種類の作用機序、適

価する。

学習(学習課題)

果題発表予定

接続可能な機器持参

り。

り。

する。

する。

する。

る。

する。

する。

する。

トにまとめる。

カワ、2017.

| | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|---------|---------------|
| 科目名 (英) | 進級卒業研究(HR) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 |
| | (Orthoptics) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 職業人としての身構え・気構え・心構えを身につける。 専門的な知識や技術を通して、各自で疑問に思ったことや興味を持った分野に着目し、研究を進める。 | | | | | |
| 到達目標 | ①各班で研究テーマを決定し、研究計画書を提出できるようになる。 ②テーマに沿ったデータ収集が出来るようになる。 ③PPTと抄録を作成出来るようになる。 ④クラス内研究報告会で発表できるようになる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | クラス内研究報告会 50% 研究計画書30% 提出物20% | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|----------|--------------------|---------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態・時間帯 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学) |
| 1 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 2 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 3 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 4 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 5 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 6 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 7 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 8 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 9 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 10 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 11 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 12 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 13 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 14 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 15 | | 講義 | 職業人に向けて必要なことを説明できる | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

渡邊友朗

後期
水3限

習課題)

—

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|-------------|----------|-------------|
| 科目名 (英) | 医学英語 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当 教員 | 太田 充保 |
| | (Medical English) | 授業 形態 | 必修 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 後期 火1.2限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | B.A.in Physical Education | | | | | | |
| 授業の 学習内容 | 医学従事者に必要な英単語、文法を習得するとともに、医学英語論文を実際に読み、抄読会を行うことで活発な 質疑応答を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 医学の専門用語を習得し、医療に関する文献を読むことができるよう、医学英単語のみならず、文法、医学論文に 関する知識を習得することを目的とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|---------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 8/30 | 講義 | オリエンテーション・医学に必要な英単語が理解できる | 視能訓練士に必要な単語を復習する |
| 2 | 9/6 | 講義 | 筆記体を書けるようになる、筆記体でサインが書けるようになる | AからZまで筆記体を書く復習 |
| 3 | 9/13 | 講義 | 英文の読み方や文法が理解できる | 英文法について復習する |
| 4 | 9/20 | 講義 | 第1文型と第2文型を理解することができる | 英文法について復習する |
| 5 | 9/27 | 講義 | 第3文型、第4文型、第5文型を理解することができる | 英文法について復習する |
| 6 | 10/4 | 講義 | 英文法を理解することができる | 英文法について復習する |
| 7 | 10/11 | 講義 | 論文の読み方が理解できるようになる | 論文の読み方のルールを復習する |
| 8 | 10/18 | 講義 | Pub Med による論文検索方法を理解できる | 実際に論文検索をする |
| 9 | 10/25 | 講義 | 論文を検索することができるようになる | 検索した論文にある文法を確認する |
| 10 | 11/1 | 講義 | Abstractを訳する手法を理解することができる | 分からない英単語を調べてくる |
| 11 | 11/8 | 講義 | Introductionを訳する手法を理解することができる | 分からない英単語を調べてくる |
| 12 | 11/15 | 講義 | Methodsを訳する手法を理解することができる | 分からない英単語を調べてくる |
| 13 | 11/22 | 講義 | Results,Discussionを訳する手法を理解することができる | 分からない英単語を調べてくる |
| 14 | 11/29 | 演習 | 抄読会を行う。 | 論文を和訳して、PPIにまとめる |
| 15 | 12/13 | 講義 | 試験解説を行う。 | 解説内容をノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | スムーズに授業を進めるために分からない英単語はしっかり調べてきてください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 参考書:魔法の英文法 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|---------------|-----------------|
| 科目名 (英) | 臨床関連医学 (Clinical Medicine) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 小川恵子 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 金曜日 4限 |
| 教員の略歴 | 昭和63年弘前大学医学部卒業医師免許取得 東北大学大学院医学博士 みちのく記念病院勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼科領域及び関連外科の代表的疾患の病態生理を解説する。内科学に関しては循環器、呼吸器、代謝性疾患など分野別に疾患の病態生理を解説する。生理学、解剖学、病理学に関連する内容であり、医療職の人間に必要な知識を解説する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 眼科関連疾患以外の医学全般における基礎的な知識を習得する。 それにより、基礎疾患をもった患者さんに適切な対応が可能となる。チーム医療を担う視能訓練士の質の向上につながる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/16 | 講義 | 救命救急の方法について説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 2 | 9/30 | 講義 | 一般外科疾患を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 3 | 10/7 | 講義 | 循環器疾患を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 4 | 10/14 | 講義 | 呼吸器疾患を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 5 | 10/21 | 講義 | 消化器疾患を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 6 | 10/28 | 講義 | 糖尿病を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 7 | 11/4 | 講義 | 内分泌を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 8 | 11/11 | 講義 | アレルギーを説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 9 | 11/18 | 講義 | 腎疾患を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 10 | 11/25 | 講義 | 臓器別感染症を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 11 | 12/2 | 講義 | 細菌性感染症を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 12 | 12/9 | 講義 | ウイルス感染症を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 13 | 12/16 | 講義 | 脳外科疾患を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 14 | 1/20 | 講義 | 眼科疾患を説明できる | 口頭試問のために復習 |
| 15 | 2/3 | 試験解説 | 試験解説を行う。 | 解説内容をノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 教科書を熟読する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|---------|------|----------------------|
| 科目名 (英) | 臨床心理学 (Clinical Psychology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 齋藤永子 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 曜日・時限 火曜・3限 |
| 教員の略歴 | 元・聖和短大保育科教員(臨床心理・障害児保育等)、現・POP子育て相談室主宰、臨床発達心理士、保育スーパーバイザー | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 臨床心理学では、心に何か困難を抱えている人に、心理的援助を行うための理論や方法を学びます。人間について、より深く理解し、自分自身についてよく知り、今後の活動に生かします。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①臨床心理学という学問の基本的な考え方を理解する。 ②こころの問題についての基礎的な知識を学ぶ。 ③こころの治療に関する理論や技術について知る。 ④現代におけるこころの問題について関心をもち、考える。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1. 定期試験(50%) 2. レポート(30%) 3. 小レポート(20%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------------------|------|---------------|-----------------------------|--------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/5 | 講義 | オリエンテーション、臨床心理学の意義と目的が理解できる | | |
| 2 | 4/12 | 講義 | 臨床心理学の方法を理解できる | | |
| 3 | 4/19 | 講義 グループワーク | アセスメント①面接が理解できる。 | | |
| 4 | 4/26 | 講義 グループワーク | アセスメント②検査・人格(1)が理解できる。 | 小レポート① | |
| 5 | 5/10 | 講義 グループワーク | アセスメント③検査・人格(2)が理解できる。 | 小レポート② | |
| 6 | 5/17 | 講義 グループワーク | アセスメント④検査・人格(3)が理解できる。 | 小レポート③ | |
| 7 | 5/24 | 講義 グループワーク | アセスメント⑤知能検査が理解できる。 | 小レポート④ | |
| 8 | 5/31 | 講義 グループワーク | アセスメント⑥発達検査を理解できる。 | 小レポート⑤ | |
| 9 | 6/7 | 講義 グループワーク | 心理療法①精神分析を理解できる。 | | |
| 10 | 6/14 | 講義 グループワーク | 心理療法②来談者中心療法を理解できる。 | | |
| 11 | 6/21 | 講義 グループワーク | 心理療法③行動療法を理解できる。 | | |
| 12 | 6/28 | 講義 グループワーク | 心理療法④森田療法を理解できる。 | | |
| 13 | 7/5 | 講義 | 心理療法⑤様々な療法を理解できる。 | | |
| 14 | 8/30 | 講義 | 心の病気についてを理解できる。 | 小レポート⑥ | |
| 15 | 9/13 | 講義 | 現代の心の病と課題を理解できる。 | 小レポート⑦ | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【参考書】 | | | | | |
| 「スタンダード臨床心理学」サイエンス社、杉江征 他編 | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 視能検査機器学 (Orthoptic Device and Equipment) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 畑山りお |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 火曜日 1・2限 |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 視能訓練科 勤務 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼科一般検査の基本的知識を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 各検査に必要な解剖生理を理解できる。 各検査の手順を理解し、検査方法、対象、正常値を説明できる。 各検査の結果を評価することができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(100%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|------|------|---|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/12 | 講義 | 眼圧検査・隅角検査各種の検査方法や結果の見方を理解できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 2 | 5/12 | 講義 | 電気生理学検査各種の原理・方法 正常値を理解できる。(ERG・VEP) | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 3 | 5/17 | 講義 | 電気生理学検査各種の原理・方法 正常値を理解できる。(VEP・EOG・EMG) | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 4 | 5/17 | 講義 | 電気生理学検査 確認テスト 電気生理学検査について理解できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 5 | 5/24 | 講義 | 前眼部・透光体検査に必要な細隙灯顕微鏡の照明方法を説明できる。 | 小テストを実施する。 |
| 6 | 5/24 | 講義 | 中心視野検査の検査原理・方法・結果の見方を理解できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 7 | 5/31 | 講義 | 静的視野検査・動的視野検査の検査原理・方法・結果の見方を理解できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 8 | 5/31 | 講義 | 角膜の解剖生理を理解できる。 各部の正常値を説明できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 9 | 6/7 | 講義 | 角膜検査各種の検査方法、正常値を理解できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 10 | 6/7 | 講義 | 眼底検査(直像鏡、倒像鏡、眼底カメラ)の検査原理を理解し説明できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 11 | 6/14 | 講義 | 画像検査①:眼底写真の読影方法について学び、代表的な疾患の所見が説明できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 12 | 6/14 | 講義 | 画像検査②:CT・MRIの原理について学び、読影ポイントが説明できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 13 | 6/21 | 講義 | 画像検査③:光干渉断層計(OCT)の検査原理を理解し、簡潔な説明ができる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 14 | 6/21 | 講義 | 画像検査④:光干渉断層計(OCT)の読影方法について学び、代表的な疾患の所見が説明できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる。 |
| 15 | 7/19 | 講義 | 試験解説 | 解説内容に関してノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 講義内容に対応する教科書のページを熟読し、ノートまとめをする事。 | |

【使用教科書・教材・参考書】

視能学第2版・眼科検査法ハンドブック

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 視覚障害者リハビリテーション (Rehabilitation Studies) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年次 | 担当教員 | 羽田智大 鈴木志歩 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義・実習 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 水曜2限 |
| 教員の略歴 | 羽田:仙台医健・スポーツ専門学校 教務部 教務部長 理学療法士 鈴木:仙台医健・スポーツ専門学校 視能訓練科 教員 理学療法士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | リハビリとは何か、基礎知識を学ぶ。 QOL(Quality of life)およびQOV(Quality of vision)の向上を目標とした視覚障害者リハビリテーションについて学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 社会におけるリハビリテーションの位置づけを理解できる。 車いすを安全に操作することができる。 点字の基礎知識について理解できる。 視覚障害者の基本的ガイドヘルプを実施できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 筆記(100%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|-------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月7日 | 講義 | 視覚障害者リハビリテーションの理念を学び、説明することができる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 2 | 9月7日 | 実習 | 視覚障害の臨床像を学び、患者のニーズと症状を関連付けて説明できる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 3 | 9月14日 | 講義 | ロービジョンフレンドリーな環境を学び、病院内での誘導・対応が実施できる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 4 | 9月14日 | 講義 | 視覚障害者が利用できる福祉を学び、そのメリットを説明できる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 5 | 9月21日 | 講義 | 医療におけるコミュニケーションの重要性を学び説明できる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 6 | 9月21日 | 講義 | 移乗の動作を学び、実践することができる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 7 | 9月28日 | 講義・実習 | 遮光眼鏡の構造と処方を学び、説明できる。 | トラストメディカル配布資料 |
| 8 | 9月28日 | 講義・実習 | 拡大読書器や各種ICTの利用方法を学び、説明できる。 | トラストメディカル配布資料 |
| 9 | 9月29日 | 講義・実習 | 拡大鏡(ルーペ)の構造と処方方法について学び、説明することができる。 | トラストメディカル配布資料 |
| 10 | 9月29日 | 講義 | 社会におけるリハビリテーションの位置づけを学び、説明できる。医療人としてのリテラシーを学び説明できる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 11 | 9月29日 | 講義・実習 | 点字の基礎を学び点字を読むことができる。 | 点字の名刺を作成し提出 |
| 12 | 10月5日 | 講義 | 視覚障害者ガイドヘルプ法を理解できる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 13 | 10月5日 | 実習 | 基本ガイドヘルプ法を学び説明できる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 14 | ##### | 講義・実習 | 基本ガイドヘルプを実践できる。 | 授業資料で予習・復習 |
| 15 | ##### | 講義 | 試験解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|---------------|----------------|
| 科目名 (英) | 関係法規 (Regulation) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 鈴木 寿則 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 金曜 3限 |
| 教員の略歴 | 医学博士を取得後、教育機関で8年間の教育経験を有する。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | この授業は、視能訓練士として必要な保健医療福祉に関する法律の知識を学習するためのものです。他に関連する科目として、公衆衛生学及び社会福祉概論と関係します。受講生に対する要望として、専門分野に限らず、社会の仕組みを学んでほしいと願っております。そのために、授業の展開として、教科書を中心に講義を行い、保健医療福祉関係の法規について、基礎的な知識を学修する。また、現代社会と法律の関係をより理解するために、時事問題なども取り入れる。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①保健医療福祉に関する法制度について説明できる。 ②視能訓練士法の内容について説明できる。 ③それぞれの保健衛生法の内容について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------------------------|------|------|--------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/8 | 講義 | 医療と法について説明できる | 教科書による通読 |
| 2 | 4/15 | 講義 | 法律の仕組みについて説明できる | 教科書による通読 |
| 3 | 4/22 | 講義 | 医療法の目的について説明できる | 教科書による通読 |
| 4 | 5/13 | 講義 | 医療施設について説明できる | 教科書による通読 |
| 5 | 5/20 | 講義 | 医師免許について説明できる | 教科書による通読 |
| 6 | 5/27 | 講義 | 医師の医療行為について説明できる | 教科書による通読 |
| 7 | 6/3 | 講義 | 保健師助産師看護師法について説明できる | 教科書による通読 |
| 8 | 6/17 | 講義 | 視能訓練士法について説明できる | 教科書による通読 |
| 9 | 6/24 | 講義 | 医療従事者の資格法について説明できる | 教科書による通読 |
| 10 | 7/1 | 講義 | 感染症法について説明できる | 教科書による通読 |
| 11 | 7/8 | 講義 | 地域保健法について説明できる | 教科書による通読 |
| 12 | 7/15 | 講義 | 母子保健法について説明できる | 教科書による通読 |
| 13 | 9/2 | 講義 | 精神保健福祉法について説明できる | 教科書による通読 |
| 14 | 9/9 | 講義 | 医療保険制度について説明できる | 教科書による通読 |
| 15 | 9/16 | 講義 | 試験の解答および解説 | 教科書による通読 |
| 準備学習 時間外学習 | | | あらかじめ教科書を通読し、講義内容の概略を把握しておくことを目的とする。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 森山幹夫「看護関係法令(第52版)」医学書院2020年2月15日発行 | | | | |

| | | | | | | |
|------------|--|----------|----------|----|-------------|-------------|
| 科目名 (英) | 進級・卒業研究 (Promotion & Graduation Research) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年次 | 担当教員 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 理学療法士 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 専門知識・技術の習得の過程で疑問に思ったことや興味を持ったテーマを問題発見から解決まで研究する。 | | | | | |
| 到達目標 | 研究テーマを決定し、データ収集や分析を行うことで研究の流れを習得する。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | クラス内報告会(50%)、研究計画書(30%)、提出物(20%) | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|----------|-----------------|-----------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態・時間帯 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学) |
| 1 | 4/5 | 講義 | 概要説明・研究テーマを決定する | |
| 2 | 4/5 | 演習 | 研究計画書を作成する | 研究計画書の提出 |
| 3 | 9/2 | 演習 | データを収集する | 研究テーマに従って、データ収集 |
| 4 | 9/9 | 演習 | データを収集する | 〃 |
| 5 | 9/16 | 演習 | データ収集・データの分析をする | 〃 |
| 6 | 9/30 | 演習 | データ収集・データの分析をする | 〃 |
| 7 | 10/7 | 演習 | PPT・抄録を作成する | PPT・抄録作成 |
| 8 | 10/14 | 演習 | PPT・抄録を作成する | 〃 |
| 9 | 10/21 | 演習 | PPT・抄録を作成する | 〃 |
| 10 | 10/28 | 演習 | PPT・抄録を作成する | PPT・抄録データの提出 |
| 11 | 11/4 | 演習 | PPT・抄録を修正する | |
| 12 | 11/11 | 演習 | PPT・抄録を修正する | PPT・抄録データの提出 |
| 13 | 11/18 | 演習 | クラス内研究発表会① | |
| 14 | 12/2 | 演習 | クラス内研究発表会② | |
| 15 | 12/16 | 演習 | 総括 研究発表会振り返り | |

準備学習 時間外学習

【使用教科書・教材・参考書】

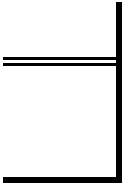
鈴木志歩

後期
金曜5限

する。

習課題)

集



| | | | | | | | | |
|------------|--|-------|----------|-----------|-------------|-------------|------|------------|
| 科目名 (英) | 視能検査学 (Examination of Orthoptics) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年次 | 担当教員 | 宮 武博 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義・ 演習 | 総時間 (単位) | 60 (4) | 開講区分 | 前期 水曜2限 |
| 教員の略歴 | H13みやぎ眼科 H30北毛保健生活協同組合北毛病院 R1東北大学付属病院在職中 視能訓練士 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼科一般検査についての基礎知識として、検査原理、対象、評価方法などを学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 各種検査について、対象・検査法・評価などの原理を説明できる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(100%) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/6 | 講義 | 色覚検査①: 先天性色覚異常の種類について学ぶ。遺伝形式や混同色の関係性を説明できる。 | 授業資料で復習 |
| 2 | 4/13 | 講義 | 色覚検査②: 色覚検査の種類について学ぶ。各検査の目的と特色を説明できる。 | 授業資料で復習 |
| 3 | 4/27 | 講義 | コンタクトレンズ①: コンタクトレンズの構造を学ぶ。SCLとHCLの違いを理解し説明できる。眼鏡からコンタクトレンズへの度数換算ができる。 | 授業資料で復習 |
| 4 | 5/11 | 講義 | コンタクトレンズ②: コンタクトレンズ処方の流れを学ぶ。眼鏡度数からの頂間距離補正を計算できる。 | 授業資料で復習 |
| 5 | 5/18 | 講義 | 眼瞼、角結膜組織の基礎知識を理解できる。外眼部検査の方法、日本人の平均値を説明できる。 | 授業資料で復習 |
| 6 | 5/25 | 講義 | コンタクトレンズ③: コンタクトレンズのケア方法を学ぶ。コンタクトレンズの管理指導ができる。 | 授業資料で復習 |
| 7 | 6/1 | 講義 | コンタクトレンズ④: コンタクトによる合併症について学ぶ。頻度の高い合併症について病態を説明できる。 | 授業資料で復習 |
| 8 | 6/8 | 講義 | 外眼筋の解剖・作用機序・神経支配について復習し、眼球運動障害をきたす疾患とその特徴を述べることができる。 | 授業資料で復習 |
| 9 | 6/15 | 講義 | 両眼視機能検査・他①斜視の運動面及び感覚面の検査が理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 10 | 6/15 | 講義 | 両眼視機能検査・他②網膜対応の定性検査が理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 11 | 6/18 | 講義 | 眼球運動検査の定性・定量検査を理解し、検査結果の記載と判定ができる。 | 授業資料で復習 |
| 12 | 6/18 | 講義 | 両眼視機能検査・他③網膜対応の定量検査が理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 13 | 6/22 | 講義 | 両眼視機能検査・他④抑制の定性、定量検査が理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 14 | 6/22 | 講義 | 両眼視機能検査・他⑤立体視(近見、遠見)検査、不等像視検査が理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 15 | 6/25 | 講義 | 屈折検査①クロスシリンダーの原理を説明できる。 | 授業資料で復習 |

| | | | | |
|---|------|----|--|-----------------|
| 16 | 6/25 | 講義 | 屈折検査②クロスシリンダー挿入時の前焦線、後焦線、最小錯乱円の位置を説明できる。 | 授業資料で復習 |
| 17 | 6/29 | 講義 | SCLの着脱方法を学び、説明できる。着脱・レンズケアにおける安全面への配慮を説明できる。 | トラストメディカル配布資料参照 |
| 18 | 6/29 | 講義 | SCLの着脱を実践し、装用感を体験する。レンズケアを体験する。 | トラストメディカル配布資料参照 |
| 19 | 7/2 | 講義 | SCL着脱指導の内容について理解し説明できる。また実際に指導ができる。 | トラストメディカル配布資料参照 |
| 20 | 7/2 | 講義 | SCLの処方の流れ、着脱練習の指導方法を実施できる。レンズケアの重要性を説明できる。 | トラストメディカル配布資料参照 |
| 21 | 7/6 | 講義 | 屈折検査③小児視覚の特性が理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 22 | 7/6 | 講義 | 屈折検査④小児の他覚的な視力検査が理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 23 | 7/13 | 講義 | 屈折検査⑤屈折異常と明視範囲が理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 24 | 7/13 | 講義 | 涙液検査の原理、方法、正常値を説明できる。 | 授業資料で復習 |
| 25 | 7/20 | 講義 | 瞳孔の解剖生理を理解できる。瞳孔検査の原理・方法を理解し、評価ができる。 | 授業資料で復習 |
| 26 | 7/20 | 講義 | 頭位異常の取り方を理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 27 | 8/31 | 講義 | 頭部傾斜試験の原理と検査法を理解できる。 | 授業資料で復習 |
| 28 | 9/3 | 講義 | 確認試験 | 授業資料で復習 |
| 29 | 9/3 | 講義 | 確認試験解説 | 授業資料で復習 |
| 30 | 9/14 | 講義 | 試験解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 視能学第二版、視能検査法ハンドブック、目でみる視力・屈折検査の進め方、理解を深めよう視力検査 屈折検査 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|-------|----------|-------|-------------|-------------|---------------|------------------|
| 科目名 (英) | 生理光学実習 (Minor Correctipn Study Practice) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年次 | 担当教員 | 畑山りお・吉田菜央 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義・実習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 月曜1・2 限 |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 生理光学で学んだ知識をもとに対象・検査手順・評価を学習する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 各種講義で学んだ知識をもとに検査・評価ができる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合 筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/4 | 実習 | スベキュラーマイクロスコープ/角膜形状解析:各検査の検査原理を理解し、説明できる。正確な検査結果を出すことができる。 クロスシリンダー:クロスシリンダーの原理を説明できる。 | レポート |
| 2 | | | | |
| 3 | 4/14 | 実習 | スベキュラーマイクロスコープ/角膜形状解析:各検査の検査原理を理解し、説明できる。正確な検査結果を出すことができる。 クロスシリンダー:クロスシリンダーの原理を説明できる。 | レポート |
| 4 | | | | |
| 5 | 4/18 | 実習 | オフサルモ・ケラト:オフサルモメータの検査原理を理解し説明できる。オフサルモメータとオートレフケラトメータを使用し、正確な値を出せる。 クロスシリンダー:本軸決定ができる。 | レポート |
| 6 | | | | |
| 7 | 4/25 | 実習 | オフサルモ・ケラト:オフサルモメータの検査原理を理解し説明できる。オフサルモメータとオートレフケラトメータを使用し、正確な値を出せる。 クロスシリンダー:本軸決定ができる。 | レポート |
| 8 | | | | |
| 9 | 5/9 | 実習 | CL・細隙灯:HCLの処方方法を学び、被検者への着脱方法を理解し説明できる。HCLのフィッティングを正しく評価できる。 クロスシリンダー:乱視度数決定ができる。 | レポート |
| 10 | | | | |
| 11 | 5/16 | 実習 | CL・細隙灯:HCLの処方方法を学び、被検者への着脱方法を理解し説明できる。HCLのフィッティングを正しく評価できる。 クロスシリンダー:乱視度数決定ができる。 | レポート |
| 12 | | | | |
| 13 | 5/21 | 実習 | 検影法:検影法の原理を理解し説明できる。 クロスシリンダー:授業資料を見ずに検査を行うことができる。 | |
| 14 | | | | |
| 15 | 5/21 | 実習 | 検影法:検影法の原理を理解し説明できる。 クロスシリンダー:授業資料を見ずに検査を行うことができる。 | |
| 16 | | | | |
| 17 | 5/22 | 実習 | 中間試験 | |
| 18 | | | | |
| 19 | 5/22 | 実習 | クロスシリンダー 授業資料を見ずに検査を行うことができる。 時間内に検査を終えることができる。 | |
| 20 | | | | |

| | | | | |
|----|------|----|---|------|
| 21 | 5/30 | 実習 | 近見視力:年齢に応じ適切な度数を加入できる。 中和法:トリック法ができる。 | レポート |
| 22 | | | | |
| 23 | 6/6 | 実習 | 雲霧法・両眼開放視力:両眼開放視力を想定することができる。 検影法:正確な技術評価ができる。 | レポート |
| 24 | | | | |
| 25 | 6/20 | 実習 | 雲霧法・両眼開放視力:両眼開放視力を想定することができる。 検影法:正確な技術評価ができる。 | レポート |
| 26 | | | | |
| 27 | 6/27 | 実習 | 総括 | |
| 28 | | | | |
| 29 | 7/4 | 講義 | 試験解説 | |
| 30 | | | | |

準備学習 時間外学習

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:眼科検査法ハンドブック、理解を深めよう視力検査屈折検査、目でみる視力・屈折検査の進めかた

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----------|----|-------------|-------------|------------------------|
| 科目名 (英) | 視能生理学実習 (Practical training in Optical Physinlogy) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年次 | 担当教員 | 畑山りお・ 吉田菜央/ 木皿滋子 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 実習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 畑山・吉田:仙台医健・スポーツ専門学校 視能訓練科 教員 視能訓練士 木皿滋子:S61帝京大学付属 市原病院 H10古河中央眼科在職中 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 相互実習を行ない、正しい検査手技によって正確な検査結果を出せるようになる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 各種講義で学んだ知識をもとに検査・評価ができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/15 | 実習 | 外眼部検査:眼球突出・瞼裂幅の測定ができる。 | レポート提出 |
| 2 | | | 眼圧検査:シェッツ、ノンコン、アキュペンの準備、接遇・誘導・検査説明・操作・記載が出来る。 | |
| 3 | 4/22 | 実習 | 外眼部検査:眼球突出・瞼裂幅の測定ができる。 | レポート提出 |
| 4 | | | 眼圧検査:シェッツ、ノンコン、アキュペンの準備、接遇・誘導・検査説明・操作・記載が出来る。 | |
| 5 | 5/12 | 実習 | 調節検査:調節の仕組みを理解できる。調節力を求める計算式から問題を解くことができる。 | レポート提出 |
| 6 | | | 眼圧検査:シェッツ、ノンコン、アキュペンの準備、接遇・誘導・検査説明・操作・記載が出来る。 | |
| 7 | ##### | 実習 | 調節検査:調節の仕組みを理解できる。調節力を求める計算式から問題を解くことができる。 | レポート提出 |
| 8 | | | 眼圧検査:シェッツ、ノンコン、アキュペンの準備、接遇・誘導・検査説明・操作・記載が出来る。 | |
| 9 | 5/20 | 実習 | 石原式近点計:適切な検査説明ができる。遠点測定のために加入するレンズ度数を設定できる。 | レポート提出 |
| 10 | | | 涙液検査:涙液の構造と生理を理解し説明できる。シルマー試験、綿糸法、メニスカスの評価の方法を理解し説明できる。 | |
| 11 | 5/26 | 実習 | HFAオリエンテーション (科目の概要・評価)講義、検査法の原理について学ぶ。 | |
| 12 | | | 検査対象となる疾患を学び、述べる事ができる。 | |
| 13 | | | 石原式近点計:適切な検査説明ができる。遠点測定のために加入するレンズ度数を設定 | |

| | | | | | |
|---|------|----|--|--------|--|
| 14 | 5/27 | 実習 | できる。 涙液検査:涙液の構造と生理を理解し説明できる。シルマー試験、綿糸法、メニスカスの評価の方法を理解し説明できる。 | レポート提出 | |
| 15 | 6/3 | 実習 | HFA ハンフリー視野計の検査目的と意義を理解する。適切な検査説明をし、正しい検査結果を出すことができる。また、検査成績の判定ができる。 | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | 6/9 | 実習 | ダコモ:器械の操作を理解し、結果を評価することができる。 涙液検査:シルマー試験、綿糸法、メニスカスの評価を安全に実施できる。 | レポート提出 | |
| 18 | | | | | |
| 19 | 6/17 | 実習 | ダコモ:器械の操作を理解し、結果を評価することができる。 涙液検査:シルマー試験、綿糸法、メニスカスの評価を安全に実施できる。 | レポート提出 | |
| 20 | | | | | |
| 21 | 6/20 | 実習 | 中間試験 1~21コマの間に習得した検査の中から行う。 | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | 6/24 | 実習 | HFA ハンフリー視野計の検査目的と意義を理解する。適切な検査説明をし、正しい検査結果を出すことができる。また、検査成績の判定ができる。 | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | 7/1 | 実習 | 三柱深径覚計:適切な検査説明ができる。器械の操作ができる。 コントラスト視力:縮視力の原理を理解でき、少数視力への換算ができる。コントラスト視力を測定できる。 | レポート提出 | |
| 26 | | | | | |
| 27 | 7/8 | 実習 | 三柱深径覚計:適切な検査説明ができる。器械の操作ができる。 コントラスト視力:縮視力の原理を理解でき、少数視力への換算ができる。コントラスト視力を測定できる。 | レポート提出 | |
| 28 | | | | | |
| 29 | 7/15 | 講義 | 試験解説(内部教員) | | |
| 30 | 7/22 | 講義 | 試験解説(木皿先生) | | |
| 準備 学習 | | | 実習室にて自主練習を行なって下さい。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 視能学第2版(文光堂) 眼科検査法ハンドブック第4版(医学書院) | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|-------|----------|-------|-------------|-------------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 視能検査学実習 I (Practical Training in Orthoptic Examination I) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 吉田美穂 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義・実習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 後期 木曜日 3.4限 |
| 教員の略歴 | H26東飯能眼科 H26高萩さくら眼科在職中 視能訓練士 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 視能検査学に基づいた検査方法を実機を用いて実習する。 OCTの基礎知識や、OCT実機を使用して操作法を学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 視能検査学に基づき、その検査法を実際の手順に従って実践できる。 OCTの検査方法及び解析結果の見方が理解できるようになる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------|-------|------|---|-------------------------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | 9/26 | 実習 | 屈折検査:乱視表、クロスシリンダーを用いて正しく検査ができる。 眼底カメラ:散瞳眼底カメラの操作法を学び、正しく操作することができる。後極部の撮影ができる。 | 屈折検査:乱視表、クロスシリンダーの原理について復習する。 | |
| 2 | | | | | |
| 3 | 10/3 | 実習 | 屈折検査:乱視表、クロスシリンダーを用いて正しく検査ができる。 眼底カメラ:散瞳眼底カメラの操作法を学び、正しく操作することができる。後極部の撮影ができる。 | 屈折検査:乱視表、クロスシリンダーの原理について復習する。 | |
| 4 | | | | | |
| 5 | 10/17 | 実習 | Worth4灯:検査原理を理解し正しく検査、判定ができる。 眼底カメラ:散瞳眼底カメラにおいて周辺部網膜の撮影ができる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 | |
| 6 | | | | | |
| 7 | 10/24 | 実習 | Worth4灯:検査原理を理解し正しく検査、判定ができる。 眼底カメラ:散瞳眼底カメラにおいて周辺部網膜の撮影ができる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 | |
| 8 | | | | | |
| 9 | 10/31 | 実習 | OCTの基礎について講義し、実機にてライン及びマップスキャンを撮影する。 バゴリニ・サイクロ・Maddox:各検査原理を理解し、正しく検査・判定できる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 | |
| 10 | | | | | |
| 11 | 11/7 | 実習 | OCT実機にてディスクスキャン撮影、試験の予行演習バゴリニ・サイクロ・Maddox:各検査原理を理解し、正しく検査・判定できる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 | |
| 12 | | | | | |
| 13 | 11/14 | 実習 | OCT実機にてディスクスキャン撮影、試験の予行演習バゴリニ・サイクロ・Maddox:各検査原理を理解し、正しく検査・判定できる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 | |
| 14 | | | | | |
| 15 | 11/21 | 実習 | OCT実機にてディスクスキャン撮影、試験の予行演習バゴリニ・サイクロ・Maddox:各検査原理を理解し、正しく検査・判定できる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 | |
| 16 | | | | | |
| 17 | 11/28 | 実習 | 不等像検査:不等像を理解し、正しく検査・判定できる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 | |

| | | | | |
|---|-------|----|--|--------------------|
| 18 | | 大目 | 中心フリッカ: 臨界融合頻度を理解し、正しく検査・判定ができる。 | 大目内容についてレポートを作成する。 |
| 19 | 12/5 | 実習 | 不等像検査: 不等像を理解し、正しく検査・判定できる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 |
| 20 | | | 中心フリッカ: 臨界融合頻度を理解し、正しく検査・判定ができる。 | |
| 21 | 12/12 | 実習 | Aモード: 測定原理・方法を理解し、測定ができる。光学的眼軸長測定検査との違いが説明できる。 | 実習内容についてノートにまとめる。 |
| 22 | | | HESS: 注視野: 眼球運動を理解し、正しく検査・評価ができる。 | |
| 23 | 12/19 | 実習 | Aモード: 測定原理・方法を理解し、測定ができる。光学的眼軸長測定検査との違いが説明できる。 | 実習内容についてノートにまとめる。 |
| 24 | | | HESS: 注視野: 眼球運動を理解し、正しく検査・評価ができる。 | |
| 25 | 1/16 | 実習 | Bモード: 測定原理・方法を理解し、測定ができる。動的測定と、静的測定の違いを説明できる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 |
| 26 | | | パゴリニ・サイクロ・Maddox: 各検査原理を理解し、正しく検査・判定できる。 | |
| 27 | 1/23 | 実習 | Bモード: 測定原理・方法を理解し、測定ができる。動的測定と、静的測定の違いを説明できる。 | 実習内容についてレポートを作成する。 |
| 28 | | | HESS: 注視野: 眼球運動を理解し、正しく検査・評価ができる。 | |
| 29 | 1/30 | 講義 | 授業のまとめを行う。 | 授業内容をまとめる。 |
| 30 | 2/6 | 講義 | 試験解説を行う。 | 解説内容をノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 内容の濃いレポートを作成するために、積極的に実習に参加してください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 教科書: 眼科検査法ハンドブック、理解を深めよう視力検査屈折検査、目でみる視力・屈折検査の進めかた | | | | |

| | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-------------|---------------|
| 科目名 (英) | 神経眼科学 I | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 |
| | (Neuron Ophthalmology II) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | |
| 教員の略歴 | 東北大学医学部附属病院勤務 医師 畑山: 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼球運動障害について学ぶ。 眼振と眼振様運動について学ぶ。 神経解剖学について学ぶ。 瞳孔異常について学ぶ。 眼瞼と顔面表情筋の障害について学ぶ。 高次視機能障害について学ぶ。 眼疾患と全身疾患について学ぶ。 視神経疾患について学ぶ。 乳頭の異常について学ぶ。 視交叉、後頭葉の病変について学ぶ。 眼窩疾患と海面静脈洞病変について学ぶ。 偏頭痛とその他頭痛について学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | 国家試験対策のために重要な皮膚から末梢病変を学習し、鑑別診断から治療までを系統立てて説明で | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1 定期試験 筆記 100% | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|--------|------|--|----------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学) |
| 1 | 9月30日 | 講義 | 神経眼科に必要な神経経路が説明できる。 | 小テスト |
| 2 | 10月7日 | 講義 | 視路を理解し、視野障害から障害部位を判定できる。 | 小テスト |
| 3 | 10月14日 | 講義 | 瞳孔の解剖生理を理解し、散瞳・縮瞳・瞳孔不同をきたす疾患を説明することができる。また、瞳孔反応の異常について判断できる。 | 講義内容に関してノートにま |
| 4 | 10月21日 | 講義 | 全身疾患が誘因となる眼疾患を学ぶ。糖尿病・動脈硬化・高血圧の病態を簡潔に説明できる。 | 小テスト |
| 5 | 10月28日 | 講義 | 視神経疾患について理解できる。 | 講義内容に関してノートにま |
| 6 | 11月4日 | 演習 | 確認試験(内部教員分)を行う。 | 確認試験 |
| 7 | 11月11日 | 講義 | 確認試験解説を行う。 | 解説内容をノートにまとめる。 |
| 8 | 11月18日 | 講義 | 眼球運動障害について学ぶ。 眼振と眼振様運動について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 講義内容に関してノートにま |
| 9 | 12月2日 | 講義 | 神経解剖学について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 講義内容に関してノートにま |
| 10 | | 講義 | 瞳孔異常について学ぶ。 眼瞼と顔面表情筋の障害について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 講義内容に関してノートにま |

| | | | | |
|-------------------------------------|--------|----|--|----------------|
| 11 | 12月9日 | 講義 | 高次視機能障害について学ぶ。 眼疾患と全身疾患について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 講義内容に関してノートにま |
| 12 | | 講義 | 視神経疾患について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 講義内容に関してノートにま |
| 13 | 12月16日 | 講義 | 乳頭の異常について学ぶ。 視交叉、後頭葉の病変について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 講義内容に関してノートにま |
| 14 | 1月20日 | 講義 | 眼窩疾患と海面静脈洞病変について学ぶ。 偏頭痛とその他頭痛について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 講義内容に関してノートにま |
| 15 | 2月3日 | 講義 | 試験解説を行う。 | 解説内容をノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 講義内容に対応する教科書のページを熟読し、ノートまとめをする。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 視能学 第2版・神経眼科学 臨床のために | | | | |

東北大学病院
医師/畑山りお

後期・金曜
3限

きる。

習課題)

とめる。

とめる。

。

とめる。

とめる。

とめる。

とめる。

とめる。

とめる。

とめる。

。

| | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|---------------|
| 科目名 (英) | 眼疾病学 I (Ophthalmology I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 |
| | 学科・コース 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 東北大学医学部付属病院勤務 医師 畑山: 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼瞼、涙器、網膜の構造について学ぶ。 眼瞼、結膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 角膜・強膜の構造。角膜、胸膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 視覚器の解剖、視機能の評価について学ぶ。 網膜硝子体疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法を学ぶ。 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 緑内障について学ぶ。 小児眼科、弱視、斜視について学ぶ。 ぶどう膜の解剖・生理について学ぶ。ぶどう膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療法について学ぶ。 網膜硝子体の構造と生理について学ぶ。網膜硝子体検査の方法について学ぶ。 外傷・全身疾患と眼の関係性を学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | 視能訓練士が関わる眼疾患を中心にその病態、検査法、鑑別診断、治療法を説明できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 筆記 100% | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|--------|------|--|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学) |
| 1 | 9月21日 | 講義 | 眼疾患に必要な解剖生理学が理解できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる |
| 2 | 9月28日 | 講義 | 水晶体の解剖生理を理解し、白内障の原理から検査、治療まで説明できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる |
| 3 | 10月5日 | 講義 | 緑内障の種類や特徴、検査、治療までを学び、過去問を解くことができる。 | 講義内容に関してノートにまとめる |
| 4 | 10月12日 | 講義 | 全身疾患が原因となり現れる眼疾患について学ぶ。糖尿病、動脈硬化、高血圧の病態を簡潔に説明できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる |
| 5 | 10月19日 | 講義 | 心因性視覚障害の特徴及び検査を説明できる。 | 講義内容に関してノートにまとめる |
| 6 | 10月26日 | 演習 | 8～12コマの授業内容で確認試験を実施する。 | 確認試験 |
| 7 | 11月2日 | 講義 | 確認試験の解説を行う。 | 解説内容をノートにまとめる。 |
| 8 | 11月9日 | 講義 | 眼瞼、結膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 角膜・強膜の構造。角膜、胸膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 現代の眼科学(改訂第12版) 第4章眼瞼疾患(P80～P87)、第6章(P96～P106)熟読する。 |
| 9 | 11月16日 | 講義 | 視覚器の解剖、視機能の評価について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 現代の眼科学(改訂第12版) 第1章解剖・発生(P2～P22)熟読する |

| | | | | |
|---|--------|----|---|--|
| 10 | 11月30日 | 講義 | 網膜硝子体疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法を学ぶ。 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 現代の眼科学(改訂第12版) 第9章網膜硝子体疾患(P162～P218)熟読する。 |
| 11 | 12月7日 | 講義 | 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 現代の眼科学(改訂第12版) 第10章(P218～P232)熟読する。 |
| 12 | 12月14日 | 講義 | 緑内障について学ぶ。 小児眼科、弱視、斜視について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 現代の眼科学(改訂第12版) 第11章緑内障(P234～P248)、第13章斜視(P274～P296)熟読する。 |
| 13 | 12月21日 | 講義 | ぶどう膜の解剖・生理について学ぶ。ぶどう膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療法について学ぶ。 網膜硝子体の構造と生理について学ぶ。網膜硝子体検査の方法について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 現代の眼科学(改訂第12版) 第8章ぶどう膜疾患(P130～P158)熟読する。 |
| 14 | 1月18日 | 講義 | 外傷・全身疾患と眼の関係性を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 現代の眼科学(改訂第12版) 第16章全身病と眼(P330～P342)、 第17章眼外傷(P344～P357)熟読する。 |
| 15 | 2月1日 | 講義 | 試験解説を行う。 | 解説内容をノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 眼疾病学は基本的に現代の眼科学・眼疾患ビジュアルブックを参考にノート作成する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 視能学 第2版・現代の眼科学 改訂12版・眼疾患ビジュアルブック | | | | |

東北大学病院
医師/畑山りお

後期・水曜
1限

習課題)

。

。

。

。

。。

結膜疾患

る。

1)熟読す

17章小児眼

熟読する。

第17章外

を行う。

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|-------------|-------------|------|----------------|
| 科目名 (英) | ロービジョン医学 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年次 | 担当教員 | 小林茂樹 / 畑山りお |
| | (Low Vision Medicine) | 授業 形態 | 講義 演習 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 水曜3限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 小林茂樹: H7日本医科大学付属病院医員助手 H11下館市民病院 眼科医長 H14医療法人 明信会 今泉眼科病院 H16医療法人社団 小林眼科医院 院長 現在に至る 畑山: 仙台医健・スポーツ専門学校 視能訓練科 教員 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 視覚障害者は必ずしも全盲者を指すものではない。また、視力障害だけでなく視野障害による見えにくさというものもある。 ロービジョン=低視力者の見えにくさを理解し、評価、対応の実際を学ぶ。 病態別のロービジョンケア及び視覚障害の原因となり得る疾患について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 視覚障害者等級について検査結果から評価できる。 患者主訴によって相応しいロービジョンエイドを選択できる。 必要倍率を計算し、患者の求める拡大率を求めることができる。 視覚障害の原因となる各種疾患について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(100%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|--|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月6日 | 講義 | ロービジョンの定義について理解できる。 | 国家試験過去問小テスト |
| 2 | 4月8日 | 講義 | 視覚障害等級(視力)について理解できる | 国家試験過去問小テスト |
| 3 | 4月8日 | 講義 | 点眼総論、眼の解剖 解剖について理解し、説明することができる。 | |
| 4 | 4月12日 | 講義 | 前眼部疾患 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる | |
| 5 | 4月12日 | 講義 | 視覚障害等級(視野)について理解できる。 | 国家試験過去問小テスト |
| 6 | 4月13日 | 講義 | アブシク 白内障 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる | |
| 7 | 4月26日 | 講義 | 白内障、緑内障 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる | |
| 8 | 6月18日 | 講義 | ロービジョンエイドの分類が理解できる。 | 国家試験過去問小テスト |
| 9 | 6月18日 | 講義 | 網膜疾患 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる | |
| 10 | 6月25日 | 講義 | 硝子体疾患 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる | |
| 11 | 6月25日 | 講義 | ぶどう膜疾患 病因・病態・臨床所見・治療方法を理解できる | |
| 12 | 7月2日 | 講義 | 必要倍率を計算できる。 | 国家試験過去問小テスト |
| 13 | 7月2日 | 講義 | 日常生活用品・ロービジョンケアの注意点 ロービジョンエイドの処方について理解できる | 国家試験過去問小テスト |
| 14 | 7月2日 | 講義 | 試験解説(内部) | |
| 15 | 7/16 | 講義 | 試験解説(小林先生) | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|---------------|------------------|
| 科目名 (英) | 視能訓練学 I | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年次 | 担当教員 | 池田陽介 |
| | (Ortoptics I) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 土曜1・2 限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | H11美幌町国民健康保険病院 H21北海道立子ども総合医療・療育センター在職中 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 斜視・弱視など両眼視機能障害の基本的知識を確認しながら、検査から鑑別診断、訓練方法までを学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 両眼視機能障害の鑑別診断から訓練方法までを系統的に説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1 定期試験(100%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------|-------|------|---------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10/1 | 講義 | オリエンテーション・弱視の基本的知識を理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 10/1 | 講義 | 屈折異常弱視・形態覚遮断弱視が理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 3 | 10/15 | 講義 | 不同視弱視・微小斜視弱視が理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 4 | 10/15 | 講義 | 斜視弱視が理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 5 | 10/29 | 講義 | 総括1(講義1回～4回の確認試験)を行う。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 6 | 10/29 | 講義 | 総括1(確認試験)の解答、解説を行う。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 7 | 10/29 | 講義 | 斜視の基本的知識が理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 8 | 10/29 | 講義 | 先天内斜視・調節性内斜視が理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 9 | 10/30 | 講義 | 間欠性外斜視が理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 10 | 10/30 | 講義 | 交代性上斜視が理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 11 | 10/30 | 講義 | 下斜筋過動・偽斜視が理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 12 | 10/30 | 講義 | 総括2(講義7回～11回の確認試験)を行う。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 13 | 11/5 | 講義 | 総括2(確認試験)の解答、解説を行う。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 14 | 11/5 | 講義 | 総括3(講義1回～13回)重要点が理解できる。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 15 | 11/12 | 講義 | 試験解説 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 視能学第2版・眼科検査法ハンドブック・講義資料 | | | | |

| | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|---------------|
| 科目名 (英) | 視能訓練学Ⅱ (Ortoptics Ⅱ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 90 (6) | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 宮:H13みやぎ眼科 H30北毛保健生活協同組合北毛病院 R1東北大学付属病院在職中 視能訓練士 畑山:仙台医健・スポーツ専門学校 視能訓練科 専任教員 視能訓練士 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 斜視・弱視など両眼視機能障害の基本的知識を確認しながら、検査から鑑別診断、訓練方法までをに | | | | | |
| 到達目標 | 両眼視機能障害の鑑別診断から訓練方法までを系統的に説明できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(100%) | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|--|---------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学 |
| 1 | 8/31 | 講義 | 眼振の分類と種類を学ぶ。生理的眼振の説明ができ、病的眼振との区別ができる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 2 | 9/7 | 講義 | pendular nystagmusとjerky nystagmusの運動面と機能面で区別ができ、簡潔に説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 3 | 9/14 | 講義 | 病的眼振の原因となり得る障害部位を説明する事ができる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 4 | 9/20 | 講義 | 眼振に対する観血的治療法の名称と原理を学び、簡潔に説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 5 | 9/21 | 講義 | 眼振に対する非観血的療法(主に手术的療法)について学び、名称と原理が簡潔に説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 6 | 9/27 | 講義 | 1-5までの眼振に関する確認試験を行う。 | 確認試験 |
| 7 | 9/28 | 講義 | 眼振確認試験の解説を行う。 | 不正解問題の解説ノートを作 |
| 8 | 10/4 | 講義 | 麻痺性斜視:動眼神経麻痺、外転神経麻痺が理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 9 | 10/5 | 講義 | 麻痺性斜視:滑車神経麻痺、Bielschowsky頭部傾斜試験が理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 10 | 10/11 | 講義 | 特殊斜視:Brown症候群、Duane症候群が理解できる。 | |
| 11 | 10/12 | 講義 | 特殊斜視:重症筋無力症、外眼筋ミオパチーが理解できる。 | |
| 12 | 10/18 | 講義 | 核上性眼球運動障害:解剖と神経回路について理解する。 | 授業内容のノートまとめ |
| 13 | 10/19 | 講義 | 確認試験(講義8~9、10~11)、試験解説を行う。 | 授業内容のノートまとめ |
| 14 | 10/25 | 講義 | 核上性水平眼球運動障害:傍正中橋網様体付近の障害を理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 15 | 10/26 | 講義 | 核上性水平眼球運動障害:核間麻痺を理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 16 | 11/1 | 講義 | 核上性水平眼球運動障害:one and a half syndromeが理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 17 | 11/2 | 講義 | 核上性垂直眼球運動障害:Parinaud症候群が理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 18 | 11/8 | 講義 | 核上性垂直眼球運動障害:Skew deviationが理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 19 | 11/9 | 講義 | 核上性先天眼球運動障害:double elevator palsyが理解できる。 | 確認試験 |
| 20 | 11/15 | 講義 | 核上性先天眼球運動障害:general fibrosis syndromeが理解できる。 | 不正問題の解説ノートを作 |
| 21 | 11/16 | 講義 | 斜視の光学的矯正 視能矯正の段階に応じた屈折矯正について理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 22 | 11/22 | 講義 | 斜視の光学的矯正 視能矯正の段階に応じた屈折矯正について理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |

| | | | | |
|--------------------|-------|----|--|---------------|
| 23 | 11/29 | 講義 | 斜視の光学的矯正 プリズム眼鏡の原理を理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 24 | 11/30 | 講義 | 斜視のボツリヌス治療 ボツリヌス毒素の副作用と適応を述べるができる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 25 | 12/6 | 講義 | 斜視手術 各術式について理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 26 | 12/7 | 講義 | 斜視手術 各術式について理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 27 | 11/15 | 講義 | 斜視手術 合併症について理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 28 | 11/16 | 講義 | 斜視手術 合併症について理解できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 29 | 11/22 | 講義 | 眼球運動検査 Hess赤線試験の原理を理解し、結果の判定ができる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 30 | 11/29 | 講義 | 総括4(講義25,26,27,28回の確認試験を行う。) | 確認試験 |
| 31 | 11/30 | 講義 | 総括4(確認試験)の解答、解説を行う。 | 不正問題の解説ノート作成 |
| 32 | 12/6 | 講義 | 眼球運動検査 | 授業内容のノートまとめ |
| 33 | 12/7 | 講義 | 斜視視能矯正 斜視視能矯正の目的を理解し、大型弱視鏡による訓練方法を説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 34 | 12/13 | 講義 | 斜視視能矯正 斜視視能矯正の目的を理解し、大型弱視鏡による訓練方法を説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 35 | 12/14 | 講義 | Heringの法則を理解し説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 36 | 12/20 | 講義 | Sherringtonの法則を理解し説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 37 | 12/21 | 講義 | Worth4灯を理解し説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 38 | 1/17 | 講義 | Bagolini線条試験を理解し説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 39 | 1/18 | 講義 | 明室でPrism vergenceを測定(赤ガラス・調節目標・固視光を用いた輻湊・開散・垂直) | 授業内容のノートまとめ |
| 40 | 1/24 | 講義 | 暗室でPrism vergenceを測定(赤ガラス・調節目標・固視光を用いた輻湊・開散・垂直) | 授業内容のノートまとめ |
| 41 | 1/25 | 講義 | 心因性の視力障害・視野障害・色覚障害の検査所見を理解し説明できる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 42 | 2/1 | 講義 | 心因性視覚障害の診断に有用な検査の具体的な測定方法を学ぶ。心因性視覚障害と詐病を区別して考えることができる。 | 授業内容のノートまとめ |
| 43 | 2/7 | 講義 | 確認試験を行う。 | 確認試験 |
| 44 | 2/8 | 講義 | 確認試験解説を行う。 | 解説内容をノートにまとめる |
| 45 | 2/14 | 講義 | 試験解説を行う。 | 解説内容をノートにまとめる |
| 準備学習 時間外学習 | | | 国家試験で多く出題される分野であるため、授業ごとにしっかりノート作成を行う。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 視能学第2版・眼科検査法ハンドブック | | | | |

宮武博/畑山りお

後期
火2限水曜2
限

：

あふ。

習課題)

作成

校

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----------|-------------|-------------|---------------|------------------|
| 科目名 (英) | 視能訓練学実習 I (Practical Trainig in Orthoptics I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2年次 | 担当教員 | 畑山りお 吉田菜央 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 月曜3・4 限 |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校後眼科医院勤務を経て 専任教員 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼位、眼球運動、両眼視機能などの知識から各種診断的検査を行う。 眼位検査および大型弱視鏡を用いての検査の基礎知識や基本手技を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 眼位検査におけるさまざまな所見を説明できる。 患者所見から必要な検査・スライドを選択できる。 水平斜視の眼位検査を通して眼位を正しく定性、定量できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|-------|------------------------|--|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/26 | 講義 | △cover test 眼位の基礎知識について理解できる。 | レポート提出 |
| 2 | | | | |
| 3 | 10/17 | 講義 | 大型弱視鏡 両眼視機能の概要について理解できる。 | レポート提出 |
| 4 | | | | |
| 5 | 10/24 | 講義 | △cover test 眼位検査の原理・方法について理解できる。 | レポート提出 |
| 6 | | | | |
| 7 | 10/31 | 講義 | 大型弱視鏡 斜視検査の原理・方法について理解できる。 | レポート提出 |
| 8 | | | | |
| 9 | 11/7 | 実習 | 大型弱視鏡:基本操作ができる。 △cover test:遠見/近見CTが実践できる。 | レポート提出 |
| 10 | | | | |
| 11 | 11/14 | 実習 | 大型弱視鏡:単眼眼位(γ角)測定が実践できる。 △cover test:遠見/近見CUTが実践できる。 | レポート提出 |
| 12 | | | | |
| 13 | 11/21 | 実習 | 大型弱視鏡:両眼眼位(固視点減法)測定が実践できる。 △cover test:遠見/近見ACT法が実践できる。 | レポート提出 |
| 14 | | | | |
| 15 | 11/28 | 実習 | 大型弱視鏡:両眼眼位検査(交代点減法)が実践できる。 △cover test:遠見/近見定性検査が実践できる。 | レポート提出 |
| 16 | | | | |
| 17 | 12/5 | 実習 | 大型弱視鏡:両眼視機能(同時視)検査が実践できる。 △cover test:遠見/近見SPCTが実践できる。 | レポート提出 |
| 18 | | | | |
| 19 | 12/12 | 実習 | 大型弱視鏡:両眼視機能検査(網膜対応)が実践できる。 △cover test:遠見/近見APCTが実践できる。 | レポート提出 |
| 20 | | | | |
| 21 | 12/19 | 実習 | 大型弱視鏡:両眼視機能検査(融像)が実践できる。 △cover test:遠見/近見定量検査が実践できる。 | レポート提出 |
| 22 | | | | |
| 23 | 1/16 | 実習 | 確認試験 | 授業資料で予習・復習 |
| 24 | | | | |
| 25 | 1/23 | 実習 | 大型弱視鏡:両眼視機能検査(立体視)が実践できる。 △cover test:遠見/近見位検査が実践できる。 | レポート提出 |
| 26 | | | | |
| 27 | 11/21 | 実習 | 大型弱視鏡:症例を想定した検査ができる。 △cover test:時間内に遠見/近見眼位検査ができる。 | レポート提出 |
| 28 | | | | |
| 29 | 2/6 | 講義 | 試験解説 | |
| 30 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 積極的に実習室での自主練習を行ってください。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 視能学・眼科検査法ハンドブック・講義資料 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------|-------------|-------------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 視能訓練学実習Ⅱ | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 畑山りお 吉田葉央 |
| | (Practical Trainig in Orthoptics Ⅱ) | 授業 形態 | 講義・実習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 後期 月～金 1～5限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校後眼科医院勤務を経て 専任教員 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼位、眼球運動、両眼視機能などの知識から各種診断的検査を行う。 眼位検査および大型弱視鏡を用いての検査の基礎知識や基本手技を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 【内部】 眼位検査におけるさまざまな所見を説明できる。 患者所見から必要な検査・スライドを選択できる。 水平斜視、上下斜視の眼位検査を通して眼位を正しく定性、定量できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|----------------------|------|------|--|----------------|-------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 2/20 | 実習 | 近見ステレオテスト:原理、方法、対象、距離を理解し、検査を行うことができる。 | レポート提出 | | | |
| 2 | | | AC/A比:gradient法、heterophoria法を用いてAC/A比を測定することができる。 | | | | |
| 3 | 2/20 | 実習 | 近見ステレオテスト:原理、方法、対象、距離を理解し、検査を行うことができる。 | レポート提出 | | | |
| 4 | | | AC/A比:gradient法、heterophoria法を用いてAC/A比を測定することができる。 | | | | |
| 5 | 2/21 | 実習 | 赤ガラス:検査原理を理解し正しく検査、判定ができる。 | レポート提出 | | | |
| 6 | | | AI・4△BOテスト:両眼に起こる眼球運動を観察し、正常か異常かの判断ができる。 | | | | |
| 7 | 2/21 | 実習 | 赤ガラス:検査原理を理解し正しく検査、判定ができる。 | レポート提出 | | | |
| 8 | | | AI・4△BOテスト:両眼に起こる眼球運動を観察し、正常か異常かの判断ができる。 | | | | |
| 9 | 2/22 | 実習 | 眼位:近見CT、CUT、ACTが実践できる。 | レポート提出 | | | |
| 10 | | | 大型弱視鏡:基本操作が実践できる。 | | | | |
| 11 | 2/22 | 実習 | 眼位:近見CT、CUT、ACTが実践できる。 | レポート提出 | | | |
| 12 | | | 大型弱視鏡:基本操作が実践できる。 | | | | |
| 13 | 2/27 | 実習 | 眼位:近見SPCT、APCTが実践できる。 | レポート提出 | | | |
| 14 | | | 大型弱視鏡:両眼眼位検査が実践できる。 | | | | |
| 15 | 2/27 | 実習 | 眼位:近見SPCT、APCTが実践できる。 | レポート提出 | | | |
| 16 | | | 診断的むき眼位:むき、ひき、よせ運動が実践できる。検査結果と必要事項を正しく記載できる。 | | | | |
| 17 | 2/28 | 実習 | 大型弱視鏡:両眼眼位検査が実践できる。 | レポート提出 | | | |
| 18 | | | 診断的むき眼位:むき、ひき、よせ運動が実践できる。検査結果と必要事項を正しく記載できる。 | | | | |
| 19 | 2/28 | 実習 | 確認テスト1 | | | | |
| 20 | | | | | | | |
| 21 | 3/1 | 実習 | 眼位:時間内に眼位検査ができる。 | | | | |
| 22 | | | 大型弱視鏡:症例を想定した検査が実践できる。 | | | | |
| 23 | 3/1 | 実習 | 確認テスト2 | | | | |
| 24 | | | | | | | |
| 25 | 3/2 | 実習 | 融像幅:プリズムを用いて融像幅を測定することができる。 | レポート提出 | | | |
| 26 | | | | | | | |
| 27 | 3/2 | 実習 | 眼位:時間内に眼位検査ができる。 | レポート提出 | | | |
| 28 | | | 大型弱視鏡:症例を想定した検査が実践できる。 | | | | |
| 29 | 3/3 | 講義 | 眼位:時間内に眼位検査ができる。 | 解説内容をノートにまとめる。 | | | |
| 30 | | | 大型弱視鏡:症例を想定した検査が実践できる。 | | | | |
| 30 | 3/7 | 講義 | 試験解説をする。 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 積極的に実習室での自主練習を行ってください。 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | | |
| 視能学・眼科検査法ハンドブック・講義資料 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 人体の構造と機能Ⅱ | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3年次 | 担当教員 | 溝口二郎 |
| | (Structural Function of Human Body Ⅱ) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 木曜2.3限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 2016年4月以降、継続して「人体の構造と機能Ⅱ」を担当。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 解剖生理学のみならず細胞・組織学、人体発生学を取り入れて、総合的に形態、機能について理解できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 人体の構造・機能について、解剖生理学を中心に学習し、理解できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%。試験問題の6割以上を正しく解答できること。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|------|-----------------------|-------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4/28 | 講義 | 中枢神経系: 脊髄、脳幹、中脳、間脳を理解する | プリントとノートによる予習と復習 |
| 2 | 4/28 | 講義 | 小脳、大脳、大脳皮質機能局在、脳室を理解する | 同上 |
| 3 | 5/13 | 講義 | 脳脊髄液、脳血管、上・下行性伝導路を理解する | 同上 |
| 4 | 5/13 | 講義 | 末梢神経系: 脳神経Ⅰ～Ⅻの機能を理解する | 同上 |
| 5 | 5/26 | 講義 | 脊髄神経構造と各部位神経・神経叢を理解する | 同上 |
| 6 | 5/26 | 講義 | 自律神経系: 交感神経・副交感神経を理解する | 同上 |
| 7 | 6/2 | 講義 | 聴覚器、平衡感覚器、味覚器、嗅覚器を理解する | 同上 |
| 8 | 6/3 | 試験 | 定期試験 | |
| 9 | 6/9 | 解答・講義 | 骨格系: 骨の発生と成長、人体骨格を理解する | プリントとノートによる予習と復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | プリント、教科書、参考書を予習・復習する。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 「人体解剖学」構造と機能 ミクロからマクロまで F.Hマティーニ 西村書店 「解剖学—人体の構造と機能—」渡辺 皓 サイオ出版 「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|------------|
| 科目名 (英) | 人体の構造と機能Ⅱ | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 加藤徳子 |
| | (Structural Function of Human BodyⅡ) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 | 前期 水曜2限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 加藤徳子:東北大学大学院農学研究科卒、東北文化学園大専門学校非常勤講師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 人体の構造と機能を教科書の図、写真、表などを用いて、具体的に説明できる。 小設問を用いて、知識の確認ができる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 生理学の学習により、基礎的な知識レベルを上昇させ、専門科目の説明ができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 各科ごとの小テストと期末テストの結果を合わせて総合評価する。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---|-------|------|----------------------------------|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月7日 | 講義 | 血液の性状、はたらき、血液型について学び、説明することができる。 | | 小テスト |
| 2 | 4月13日 | 講義 | 心臓、血管の役割、血圧について学び、説明することができる。 | | 同上 |
| 3 | 4月27日 | 講義 | 呼吸のしくみ、ガス交換について学び、説明することができる。 | | 同上 |
| 4 | 5月11日 | 講義 | 消化の仕組み、消化酵素について学び、説明することができる。 | | 小テスト |
| 5 | 5月18日 | 講義 | 肝臓の役割、栄養、代謝について学び、説明することができる。 | | 同上 |
| 6 | 5月25日 | 講義 | 尿の生成と体内の調節について学び、説明することができる。 | | 小テスト |
| 7 | 6月1日 | 講義 | ホルモンの作用・分泌機序について学び、説明することができる。 | | 同上 |
| 8 | 6月3日 | 試験 | | | |
| 9 | 6月8日 | 解説 | 試験内容の解説 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | プリント、教科書、参考書を予習・復習する。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |
| 【加藤徳子】「人体の構造と機能」医学書院 参考書:「新しい解剖生理学」南江堂 | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|---------------|------------|
| 科目名 (英) | 視覚生理学Ⅱ (Visual Physiology Ⅱ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 宮武博 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 水曜1限 |
| 教員の略歴 | H13みやぎ眼科 H30北毛保健生活協同組合北毛病院 R1東北大学付属病院在職中 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 視覚の各要素について改めて説明できる。 各要素に関する用語、法則、現象等を理解できる。 過去国家試験問題から視覚生理学に関する問題を解説できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①視力、視野、色覚、光覚の各要素に関する用語を説明できる。 ②電気生理検査の検査ごとの原理、特徴を理解できる。 ③視覚生理学の範囲の過去国家試験問題を解くことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(筆記)100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|----------------|-------|------|---------------------------|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月6日 | 講義 | 視力の種類、視力に影響する因子について説明できる。 | | ノートの復習 |
| 2 | 4月13日 | 講義 | 視野異常、視野に影響する因子について説明できる。 | | 同上 |
| 3 | 4月27日 | 講義 | 色の特性、色覚異常について説明できる。 | | 同上 |
| 4 | 5月11日 | 講義 | 光覚に関係する反応について説明できる。 | | 同上 |
| 5 | 5月18日 | 講義 | 電気生理学検査の原理について説明できる。 | | 同上 |
| 6 | 5月25日 | 講義 | 過去国家試験問題演習・解説できる。 | | 同上 |
| 7 | 6月1日 | 講義 | 過去国家試験問題演習・解説できる。 | | 同上 |
| 8 | 6月2日 | 試験 | 定期試験 | | |
| 9 | 6月8日 | 講義 | 試験解説 | | |
| | | | ノートの復習 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |
| 視能学第2版 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|
| 科目名 (英) | 生理光学Ⅱ | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
| | (Optic Physiology Ⅱ) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 (1) |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | |
| 教員の略歴 | H28ベストメディカルサービス R2ひでゆき眼科クリニック在職中 視能訓練士 | | | | |
| 授業の学習内容 | 視能訓練士国家試験において、生理光学分野の問題や生理光学を理解していないと正答できない問題、眼光学について改めて理解し、国家試験に出題される問題を解けるように解説できる。過去国家試験問題等を実際に解き、生理光学分野の得点力を上げることができる。 | | | | |
| 到達目標 | ①視力・視角・検査距離・網膜像の大きさの計算ができる。 ②屈折矯正・検影法に関する問題を解くことができる。 ③遠点・近点・調節力に関する問題を解くことができる。 ④プリズム度数・輻輳角・AC/A比の計算ができる。 ⑤その他、国家試験出題範囲の生理光学分野の問題を解くことができる。 | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(筆記)100% | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|-------------------|---------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間 |
| 1 | 4月5日 | 講義 | 光、レンズに関する公式を使った計算 | 生理光学ドリル |
| 2 | 4月5日 | 講義 | 視力・視角・検査距離の計算 | 同 |
| 3 | 4月19日 | 講義 | 遠点・近点・調節力の計算 | 同 |
| 4 | 4月19日 | 講義 | プリズム、輻輳角、AC/A比の計算 | 同 |
| 5 | 5月10日 | 講義 | 頂点間距離を考慮した計算 | 同 |
| 6 | 5月10日 | 講義 | 過去国家試験問題演習・解説 | 同 |
| 7 | 5月24日 | 講義 | 過去国家試験問題演習・解説 | 同 |
| 8 | 5月31日 | 試験 | 定期試験 | |
| 9 | 6月7日 | 講義 | 定期試験解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 生理光学ドリルⅡの復習 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 生理光学ドリルⅡ | | | | |

| | |
|---------------|--------------|
| 担当教員 | 成田 周平 |
| 開講区分 曜日・時限 | 前期 火曜1.2限 |
| 問題は頻出しているた | |
| | |
| | |

| | |
|-----------|--|
| | |
| ト学習(学習課題) | |
| IIの問題を解く | |
| 上 | |
| 上 | |
| 上 | |
| 上 | |
| 上 | |
| 上 | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|---------------|
| 科目名 (英) | 眼科薬理学Ⅱ | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 |
| | (PharmacologyⅡ) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 (1) | 開講区分 曜日・時限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | |
| 教員の略歴 | 薬学博士(S49取得) 帝京大学薬学部教授(H18-28) | | | | | |
| 授業の学習内容 | 医療の現場において視能訓練士は医薬品や、試薬を使用する機会も多い。この科目で用いられる医薬品一般について概略的に学ぶことを目的とする。さらに眼科領域で使 用される医薬品について説明できる。 | | | | | |
| 到達目標 | ①点眼薬を中心とする眼科領域で使用される医薬品が理解でき、説明できる。 ②コメディカルの理解を必要とする医薬品100種類の作用機序、適応、副作用について説 明できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 期末の定期試験90点、今回に限り眼科薬理学Ⅰの薬理学実習のレポートを10点満点 とする。その他出席状況、受講態度も評価する。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|------|-------|--|--------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学) |
| 1 | 4/5 | 講義 | 前期のまとめ、今後の予定、 循環器系疾患の薬、呼吸器系疾患の薬 について説明できる。 | 教科書P215～255、P299～3 |
| 2 | 4/12 | 講義・演習 | 消化器系疾患の薬について説明でき る。 | 教科書P317～343を熟読 |
| 3 | 5/19 | 講義・演習 | 代謝系疾患の薬、血液・造血管系疾患 の薬について説明できる。 | 教科書P345～365、P257～2 |
| 4 | 4/26 | 講義・演習 | 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬につい て説明できる。 | 教科書P179～199を熟読 |
| 5 | 5/10 | 講義・演習 | 薬剤の副作用/医薬品における健康被 害について説明できる。 | プリント配布 |
| 6 | 5/17 | 講義・演習 | 眼科で使用する薬の概説および視能訓 練士国家試験過去問の演習と解説(そ の1)/演習 | プリント配布 |
| 7 | 5/24 | 講義・演習 | 眼科で使用する薬の概説および視能訓 練士国家試験過去問の演習と解説(そ の2)/演習 | プリント配布 |
| | 5/31 | 試験 | | |
| 8 | 6/7 | 試験解説 | 定期試験解説・国家試験眼科薬理学試 験内容まとめ | プリント配布 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】教科書:櫻田 司編集、「コンパス薬理学 改訂第2版」、南江堂、2017。 参考書:庄子 純他編集著、「点眼薬 クリニカルブック第2版」、金原出版株式会社、2015。 演習:安原一・小口勝司編、「わかりやすい薬理学第3版 生理ノートポイントと確認問題」、ノーベルヒロカ 2017。 鈴木正彦著、「新改訂薬理学第2版」、株式会社サイオ出版、2014。 | | | | |

江戸清人

前期
火曜・3限

は臨床
用される

説明でき

で評価す

習課題)

315を熟読

276を熟読

ワ、

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|---------------|--------------|
| 科目名 (英) | 視能矯正学 (Orthoptics) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 大弓幸子 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 金曜3.4限 |
| 教員の略歴 | 1980帝京大学病院眼科1982松田眼科クリニック2017岩手県立盛岡視覚支援学校、東北文化学園大学 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 本講義は、狭義の視能矯正学、主に弱視や斜視を対象に、検査や訓練をするための基礎知識を説明できる。斜視や弱視の治療は主に「視覚の感受性期間」内に行う、つまり小児が対象である。小さい子に対して「両眼視機能」を探りながら検査や訓練をするのは大変だが、視能矯正は視能訓練士の原点ともいえるやりがいがある分野である。小児の視機能(視力、調節、調節、両眼視機能などは発達過程にある。視能を矯正するとは、正常な発達を促すための視環境の管理を行った上で、適切なタイミングで必要な訓練を行うことになる。そのためには、正常な視能の発達過程、条件を十分に理解して、幼い子から得られる限られた情報を十分に活用して治療方針を立てる「考える力」が必要になる。講義では、両眼視機能といった目に見えない機能をイメージしやすいように、図を活用し、考えを進めていけるように流れを組み立てて構成していく。 | | | | | | |
| 到達目標 | ① 視力や他の視機能がいつどのように発達していくのか、そして幼年型視覚の特徴はなにか理解できる。②弱視の原因と病態を理解でき、臨床所見から弱視の分類ができる。③斜視についての定義、診断のために必要な情報はなにか考えることができる。④正常両眼視とはどのようなものか理解でき、両眼視機能異常や不調について所見や訴えから想定することができる。⑤両眼視機能検査の目的がわかり、適切に選択することができる⑥両眼視機能検査の結果から状態を評価することができる⑦視能矯正訓練の目的と理論を理解できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験80% 2) 小テスト5% 3) 出席数 15% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|------------|-------|-----------|---|--------------------------------|-------------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 4月1日 | 双方向型オンライン | 視覚の発達と幼年型視覚：・視覚の感受性期間について・正常な視覚(視力、調節、屈折、眼球運動、両眼視機能)はどのように発達していくのか・幼年型視覚の特徴 | 事前：視能学に目を通す | 授業後：資料を再読 | | |
| 2 | 4月1日 | 双方向型オンライン | ・視力の発達に必要な条件・感受性期間と弱視訓練の基本ルール | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 3 | 4月15日 | 双方向型オンライン | 弱視総論：医学的弱視の定義・弱視の定義の変遷・弱視の原因・弱視の分類 各論：形態覚遮断弱視、原因、病態、診断、検査、治療 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 4 | 4月15日 | 双方向型オンライン | 弱視各論：屈折異常弱視・原因、病態、診断、検査、治療 不両眼弱視・原因、病態、診断、検査、治療 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 5 | 4月22日 | 双方向型オンライン | 弱視各論：斜視弱視の原因、病態、診断、検査、治療 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 6 | 4月22日 | 双方向型オンライン | 弱視各論：微小斜視弱視・原因、病態、診断、検査、治療 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 7 | 5月6日 | 双方向型オンライン | 両眼視の基礎：なぜ眼が二つあるのか・メリットとリスク・両眼視野・視方向・自己中心局在 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 8 | 5月6日 | 双方向型オンライン | 両眼視の基礎：ホロプター・バナムの領域・同時視・感覚性融像・運動性融像・立体視 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 9 | 5月13日 | 双方向型オンライン | 斜視総論：定義・病理・分類・診断のために必要な情報 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 10 | 5月13日 | 双方向型オンライン | 幼年型視覚期に生じる斜視の異常：抑制・網膜対応異常 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 11 | 5月20日 | 双方向型オンライン | 斜視の検査と評価：中心窩とみちづれ領の検査・中心窩と中心窩の検査 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 12 | 5月20日 | 双方向型オンライン | 大型弱視鏡による検査の実際：同時視・融像・立体視 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 13 | 5月27日 | 双方向型オンライン | 視能矯正訓練の実際：外斜視 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 14 | 5月27日 | 双方向型オンライン | 視能矯正訓練の実際：内斜視・眼筋麻痺 | 事前：資料に目を通す | 授業後：資料を再読ノートをまとめる | | |
| 15 | 5月30日 | 試験 | | | | | |
| 16 | 6月3日 | 双方向型オンライン | 試験解説 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | 講義資料を前の講義時間に配布する為、事前に読んでおく必要あり | | | |

【使用教科書・教材・参考書】

視能学 第2版・講義資料(配布)・パワーポイント使用

| | | | | | | |
|------------|--|----------|-------|-------------|-------------|---------------|
| 科目名 (英) | 進級・卒業研究 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3年次 | 担当教員 |
| | (Orthoptics) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 45 (3) | 開講区分 曜日・時限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | |
| 授業の学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習に参加するために必要な身構え・気構え・心構えを身につけるとともに、臨地実習に必要な書ける。 ・専門知識・技術の習得の課程で、疑問に思ったことや興味をもったテーマを、問題発見から解決まで研 ・臨地実習用ノート、国試対策ノートの作成ができる。 | | | | | |
| 到達目標 | 学習の集大成として、視能訓練の理解を深めることができる。 国家試験に合格しうる知識を定着できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(100%) | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|--------|----------|---------------|----------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態・時間帯 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学) |
| 1 | 5月11日 | 演習 | 臨地実習用ノート作成 | 臨地実習用ノート作成 |
| 2 | | | | |
| 3 | 5月18日 | 演習 | 臨地実習用ノート作成 | 臨地実習用ノート作成 |
| 4 | | | | |
| 5 | 5月25日 | 講義 | 臨地実習オリエンテーション | 臨地実習用ノート作成 |
| 6 | | | | |
| 7 | 6月1日 | 演習 | 臨地実習必要書類作成 | 臨地実習用ノート作成 |
| 8 | | | | |
| 9 | 6月6日 | 講義 | 臨地実習最終指導 | 臨地実習用ノート作成 |
| 10 | 8月10日 | 演習 | 臨地実習 I 期振り返り | 臨地実習 I 期アンケート |
| 11 | | | | |
| 12 | 8月15日 | 講義 | 国家試験オリエンテーション | 国試対策ノート作成 |
| 13 | | | | |
| 14 | 10月25日 | 演習 | 臨地実習 II 期振り返り | 臨地実習 II 期アンケート |
| 15 | | | | |
| 16 | 10月28日 | 演習 | 症例報告まとめ | 国試対策ノート作成 |

| 17 | 10月29日 | 演習 | 症例報告まとめ | 国試対策ノート作成 |
|------------|--------|----|---------|-----------|
| 18 | 11月7日 | 演習 | 症例報告まとめ | 国試対策ノート作成 |
| 19 | | | | |
| 20 | 11月8日 | 演習 | 症例報告まとめ | 国試対策ノート作成 |
| 21 | | | | |
| 22 | 11月10日 | 演習 | 症例報告会 | 国試対策ノート作成 |
| 23 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |

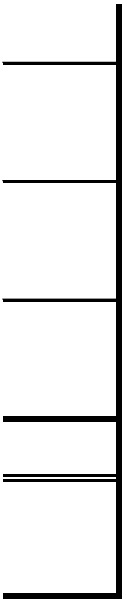
【使用教科書・教材・参考書】
 視能学第2版、現代の眼科学、眼科検査法ハンドブック、視能矯正学第3版

吉田菜央

通年

書類作成が
研究できる。

習課題)



—

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-------------|------|--------------------|
| 科目名 (英) | 視能検査学実習Ⅱ | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3年次 | 担当教員 | 吉田美穂 |
| | (Practical training in Orthoptic ExaminationⅡ) | 授業 形態 | 実習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 木曜3・4・ 5限 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | | |
| 教員の略歴 | H26東飯能眼科 H26高萩さくら眼科在職中 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 相互実習を行い、正しい検査手技によって正確な検査結果を出すことができる。 ケースワークをもとに、各疾患に対する検査の組み立て方を学び、臨床で必要な考察力を身につけることができる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 問診から考え得る疾患を列挙できる。 患者様の理解度に応じた検査説明ができる。 正しい操作で検査ができ、正確な結果を出すことができる。 正しい検査結果の評価ができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 筆記(試験60%、OSCE20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|-------|----------------------|--|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5月12日 | 実習 | オリエンテーション 視力検査・視野検査等の学生間相互実習にて手順・操作方法・原理の確認を行う。 | 同上 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | 5月15日 | 実習 | 視力検査・視野検査等の学生間相互実習にて手順・操作方法・原理の確認を行う。 | 同上 |
| 5 | | | | |
| 6 | 5月19日 | 実習 | 視力検査・視野検査等の学生間相互実習にて手順・操作方法・原理の確認を行う。 | 同上 |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | 5月26日 | 実習 | OSCE評価のフィードバックを行なう。 改善点を確認したうえで相互実習を行う。 | 同上 |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | 6月2日 | 実習 | 総括 | 同上 |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | 6月9日 | 講義 | 試験解説 | 同上 |
| 準備学習 時間外学習 | | 検査の原理、説明方法を予習しておくこと。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 視能学 第2版・現代の眼科学・眼科検査法ハンドブック・1.2年次講義資料・レポート | | | | |

| | | | | | | |
|------------|--|-------|----------|----|-------------|-------------|
| 科目名 (英) | 神経眼科学Ⅱ (Neuron OphthalmologyⅡ) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3年次 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 (1) |
| 教員の略歴 | 東北大学医学部附属病院勤務 医師 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼球運動障害について説明できる。 眼振と眼振様運動について説明できる。 神経解剖学について説明できる。 瞳孔異常について説明できる。 眼瞼と顔面表情筋の障害について説明できる。 高次視機能障害について説明できる。 眼疾患と全身疾患について説明できる。 視神経疾患について説明できる。 乳頭の異常について説明できる。 視交叉、後頭葉の病変について説明できる。 眼窩疾患と海面静脈洞病変について説明できる。 偏頭痛とその他頭痛について説明できる。 | | | | | |
| 到達目標 | 国家試験対策のために重要な皮膚から末梢病変を学習し、鑑別診断から治療までを系統立てて説明 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1 定期試験 筆記 100% | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|--------|------|--|----------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外 |
| 1 | 11月1日 | 講義 | 眼球運動障害について学ぶ。 眼振と眼振様運動について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | |
| 2 | 11月2日 | 講義 | 神経解剖学について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | |
| 3 | 11月3日 | 講義 | 瞳孔異常について学ぶ。 眼瞼と顔面表情筋の障害について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | |
| 4 | 11月4日 | 講義 | 高次視機能障害について学ぶ。 眼疾患と全身疾患について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | |
| 5 | 11月7日 | 講義 | 視神経疾患について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | |
| 6 | 11月8日 | 講義 | 乳頭の異常について学ぶ。 視交叉、後頭葉の病変について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | |
| 7 | 11月9日 | 講義 | 眼窩疾患と海面静脈洞病変について学ぶ。 偏頭痛とその他頭痛について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | |
| | 11月12日 | 試験 | | |

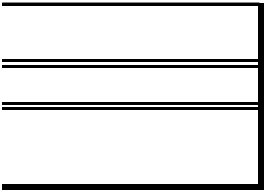
| | | | |
|-------------------------------------|--------|-------|--|
| 8 | 11月14日 | 解説 | |
| 準備学習 | | 時間外学習 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 視能学 第2版・神経眼科学 臨床のために | | | |

| | |
|------|--------------|
| 担当教員 | 東北大学病院 医師 |
|------|--------------|

| | |
|-------|-------|
| 開講区分 | 後期 |
| 曜日・時限 | 日程調整中 |

できる。

学習(学習課題)



| | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|
| 科目名 (英) | 眼疾病学Ⅱ (OphthalmologyⅡ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3年次 |
| | 学科・コース 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 (1) |
| 教員の略歴 | 東北大学附属病院勤務 医師 | | | | |
| 授業の学習内容 | <p>眼瞼、涙器、網膜の構造について説明できる。 眼瞼、結膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について説明できる。 角膜・強膜の構造。角膜、胸膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について説明できる。 視覚器の解剖、視機能の評価について説明できる。 網膜硝子体疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法を説明できる。 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を説明できる。 緑内障について説明できる。 小児眼科、弱視、斜視について説明できる。 ぶどう膜の解剖・生理について説明できる。ぶどう膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療法について説明できる。 網膜硝子体の構造と生理について説明できる。網膜硝子体検査の方法について説明できる。 外傷・全身疾患と眼の関係性を説明できる。</p> | | | | |
| 到達目標 | 国家試験対策のために重要な眼疾患の病態、検査結果、鑑別診断、治療法を説明できる。 | | | | |
| 評価方法と基準 | 1 定期試験 筆記 100% | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|--|---------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間 |
| 1 | 11月1日 | 講義 | 眼瞼、結膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 角膜・強膜の構造。角膜、胸膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 授業内容をノ |
| 2 | 11月2日 | 講義 | 視覚器の解剖、視機能の評価について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 同 |
| 3 | 11月3日 | 講義 | 網膜硝子体疾患の原因、病態、臨床所見、治療方法を学ぶ。 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 同 |
| 4 | 11月4日 | 講義 | 水晶体疾患について、白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法を学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 同 |
| 5 | 11月7日 | 講義 | 緑内障について学ぶ。 小児眼科、弱視、斜視について学ぶ。 以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 同 |

| | | | | |
|-------------------------------------|--------|------|---|---|
| 6 | 11月8日 | 講義 | ぶどう膜の解剖・生理について学ぶ。ぶどう膜疾患の原因、病態、臨床所見、治療法について学ぶ。網膜硝子体の構造と生理について学ぶ。網膜硝子体検査の方法について学ぶ。以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 同 |
| 7 | 11月9日 | 講義 | 外傷・全身疾患と眼の関係性を学ぶ。以上に関する国家試験問題を解説する事ができる。 | 同 |
| | 11月12日 | 試験 | | |
| 8 | 11月14日 | 試験解説 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 視能学 第2版・現代の眼科学 改訂12版 | | | | |

| |
|---|
| 上 |
| 上 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

| | | | | | | |
|------------|--|----------|----------|----|-------------|-----------|
| 科目名 (英) | 視能障害学 (Practical Disorders) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) |
| 教員の略歴 | 小林茂樹:H7日本医科大学付属病院医員助手 H11下館市民病院 眼科医長 H14医療法人 明信会 今泉院 H16医療法人社団 小林眼科医院 院長 現在に至る | | | | | |
| 授業の学習内容 | 【小林茂樹先生】 各疾患の症例写真を多く用いたスライドを提示し、臨床上的話しを踏まえながら授業を進め、各疾患の語る。 | | | | | |
| 到達目標 | 【小林茂樹先生】 症例写真を見て、臨床所見を答えることができる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 【小林茂樹先生】 定期試験(100%) | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|--------------------------------------|-----------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習) |
| 1 | 4月2日 | 講義 | 色覚 色覚検査の重要性を理解できる。 | 事前:視能学を読む 授業後:資 |
| 2 | 4月16日 | 講義 | OCT、緑内障 OCT画像から緑内障所見を述べることができ | 事前:視能学を読む 授業後:資 |
| 3 | 4月16日 | 講義 | 前視野緑内障、点眼薬総論 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき | 事前:視能学を読む 授業後:資 |
| 4 | 4月16日 | 講義 | 前眼部疾患 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき | 事前:視能学を読む 授業後:資 |
| 5 | 6月4日 | 講義 | 白内障 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき | 事前:視能学を読む 授業後:資 |
| 6 | 6月4日 | 講義 | 加齢黄斑変性症、網膜疾患 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき | 事前:視能学を読む 授業後:資 |
| 7 | 6月4日 | 講義 | ぶどう膜疾患 原因・病態・臨床所見・治療方法を理解でき | 事前:視能学を読む 授業後:資 |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |

| | | | | |
|---------------------------------|--|--|--|--|
| 15 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 【小林茂樹先生】 眼科疾患ビジュアルブック、現代の眼科学 | | | | |

小林茂樹

前期
土曜3.4.5
限

泉眼科病

説明でき

習課題)

料を再読

料を再読

料を再読

料を再読

料を再読

料を再読

料を再読

料を再読

料を再読

料を再読

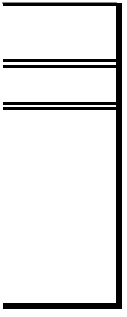
料を再読

料を再読

料を再読

料を再読

料を再読



| | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|------|
| 科目名 (英) | 視能訓練学実習Ⅲ | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3年次 | 担当教員 |
| | (Practical Trainig in Orthoptics Ⅲ) | 授業 形態 | 実習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 |
| 学科・コース | 視能訓練科 | | | | | |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ&こども専門学校 視能訓練科 教員 視能訓練士 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 眼位、眼球運動、両眼視機能などの知識から各種診断的検査ができる。 眼位検査手技を習得し、臨地実習における実践の場で活用できる。 | | | | | |
| 到達目標 | 患者が理解しやすい説明・声かけができる。 眼位検査におけるさまざまな所見を説明できる。 患者所見から必要な検査選択できる。 基本的眼位を正しく定性、定量できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%) ※実技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|---------|-------|------|---|------|----------|--------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学) | |
| 1 | 4月4日 | 実習 | 眼位検査 | | | 2年次作成レポートを確認 |
| 2 | | | 水平・上下斜視の眼位検査ができる。 | | | |
| 3 | 4月11日 | 実習 | 眼位検査(プレ試験) | | | 被検者が検者を評価。客観的 検者にフィードバックする。 |
| 4 | | | 試験同様の形式で各種斜視に対する眼位検査が実践できる。 | | | |
| 5 | 4月18日 | 実習 | 検影法 | | | 同上 |
| 6 | | | ①復習/ 検影法の基本原理を思い出す。 ②球面屈折異常を述べることができる。 | | | |
| 7 | 4月25日 | 実習 | 検影法 | | | 同上 |
| 8 | | | ①復習/ 検影法の基本原理を思い出す。 ②球面屈折異常を述べることができる。 | | | |
| 9 | 5月14日 | 実習 | 検影法 | | | 同上 |
| 10 | | | ③乱視の特徴を述べることができる。 ④球面レンズ法を実践できる。 | | | |
| 11 | 5月14日 | 実習 | 検影法 | | | 同上 |
| 12 | | | ①プラス円柱レンズ法を実践できる。 ②マイナス円柱レンズ法を実践できる。 | | | |
| 13 | 5月15日 | 実習 | 検影法 | | | 同上 |
| 14 | | | ③他の検査との連携を理解する。 ④臨床における検影法を理解する。 | | | |
| 15 | 6月7日 | 講義 | 試験解説 | | | |

| | |
|------------|--|
| 準備学習 時間外学習 | |
|------------|--|

【使用教科書・教材・参考書】

視能学・眼科検査法ハンドブック・2年次授業資料及び作成レポート

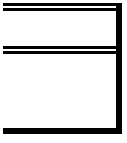
畑山りお
吉田菜央

前期
月曜1・2
限

習課題)

する。

的評価を



| | | | | | | | | |
|-------------|--|-------|----------|--------------|-------------|------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 臨地実習 I (Clinical Practice I) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3年 | 担当教員 | 実習施設 指導者様 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習 | 総時間 (単位) | 315 (7) | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | ①眼科検査機器の使用法を学び操作できる。 ②眼疾患についての理解を深めることができる。 ③患者様に対して検査の説明ができる。 ④眼疾患と検査の関連を理解できる。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 医療現場において、医療倫理に基づく基本的なマナーを実践し、視能訓練士として必要な知識・技術を修得できる。また、視能訓練士業務を行うのに必ず修得しておかなければならない基本的事項について実習を行い、今後の自己の課題を検討することができる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 実習生授業参加態度、実習生出欠状況、症例記録:100% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|--------------|---------------|-------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1～ 158 | 6/13～ 8/8 | 実習 | 臨地実習 I 期 期間 6/14～8/9 | 実習記録 |
| 準備学習 時間外学習 | | 自己学習、実技練習を行う。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 視能検査法ハンドブック、現代の眼科学改訂第13版、眼科疾患ビジュアルブック、視能学第2版、視能矯正学第3版 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|-------|----------|--------------|-------------|------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 臨地実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3年 | 担当教員 | 実習施設 指導者様 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習 | 総時間 (単位) | 315 (7) | 開講区分 | 通年 |
| 教員の略歴 | | | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | <p>今まで学んだ知識・技術を活かし臨地実習指導者の指示のもと、視能訓練士業務を経験し実践できる。</p> <p>①眼疾患と検査の関連を理解できる。 ②眼疾患に応じた検査内容が理解できる。 ③治療方針が理解できる。 ④視能矯正学に基づいた知識をもって臨地での検査ができる。 ⑤ロービジョンの実際について学ぶことができる。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>医療現場において、医療倫理に基づく基本的なマナーを実践し、視能訓練士として必要な知識・技術を修得できる。また、視能訓練士業務を行うのに必ず修得しておかなければならない基本的事項について見学及び実習を行い、今後の自己の課題を検討できる。</p> | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 実習施設での総合評価(実習指導担当者様による評価、出欠状況、実習記録) : 100% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----------------|--------------------------|------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 9～ 146 | 8/22～ 10/19 | 実習 | 臨床実習Ⅱ 期間 8/23～10/20 | 実習記録 |
| 準備学習 時間外学習 | | 学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|----|-------------|-----------|---------------|
| 科目名 (英) | 医療事務総論 (Introduction to Medical Secretary) | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 畑山りお |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 医療従事者としての事務の知識・技術について学習する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①医療従事者としての接遇について説明できる。 ②医療従事者としてのマナーについて説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 平常点(授業の取り組み状況・確認テスト) 100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|--------|------|----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月26日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 2 | 10月3日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 3 | 10月17日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 4 | 10月24日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 5 | 10月31日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 6 | 11月7日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 7 | 11月14日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 8 | 11月21日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 9 | 11月28日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 10 | 12月5日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 11 | 12月12日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 12 | 12月19日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 13 | 1月16日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 14 | 1月23日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| | 1月30日 | 試験 | | |
| 15 | 2月6日 | 講義 | 接遇・マナーを説明・実践できる。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 医療に関わる時事について興味・関心も持つ | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|----|-------------|-----------|---------------|
| 科目名 (英) | 医療事務演習 I (Pracrice of Medical Secretary I) | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 2 | 担当教員 | 吉田菜央 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 医療従事者としての事務に関わる知識と技術を統合し、各業務を学習する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①受付会計業務の説明ができる。 ②クラーク業務について説明できる。 ③レセプト業務について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 平常点(授業の取り組み状況・確認テスト) 50% 筆記テスト 50% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 受付会計業務を説明できる。 | |
| 2 | | 講義 | 受付会計業務を説明できる。 | |
| 3 | | 講義 | 受付会計業務を説明できる。 | |
| 4 | | 講義 | クラーク業務を説明できる。 | |
| 5 | | 講義 | クラーク業務を説明できる。 | |
| 6 | | 講義 | クラーク業務を説明できる。 | |
| 7 | | 講義 | クラーク業務を説明できる。 | |
| 8 | | 講義 | クラーク業務を説明できる。 | |
| 9 | | 講義 | レセプト業務を説明できる。 | |
| 10 | | 講義 | レセプト業務を説明できる。 | |
| 11 | | 講義 | レセプト業務を説明できる。 | |
| 12 | | 講義 | レセプト業務を説明できる。 | |
| 13 | | 講義 | レセプト業務を説明できる。 | |
| 14 | | 講義 | 各業務を説明できる。 | |
| | | 試験 | | |
| 15 | | 講義 | 試験解説。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 医療に関わる時事について興味・関心も持つ | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|----|-------------|-----------|---------------|
| 科目名 (英) | 医療事務演習Ⅱ (Pracrice of Medical Secretary Ⅱ) | 必修 選択 | 選択 | 年次 | 2 | 担当教員 | 吉田菜央 |
| | 学科・コース | 視能訓練科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 医療従事者としての事務に関わる知識と技術を統合し、各業務を実践する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①受付会計業務の説明ができる。 ②クラーク業務について説明できる。 ③レセプト業務について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 平常点(授業の取り組み状況・確認テスト) 50% 筆記テスト 50% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|----|------|----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1/2 | | 講義 | 受付会計業務を実践できる。 | |
| 3/4 | | 講義 | 受付会計業務を実践できる。 | |
| 5/6 | | 講義 | 受付会計業務を実践できる。 | |
| 7/8 | | 講義 | クラーク業務を実践できる。 | |
| 9/10 | | 講義 | クラーク業務を実践できる。 | |
| 11/12 | | 講義 | クラーク業務を実践できる。 | |
| 13/14 | | 講義 | クラーク業務を実践できる。 | |
| 15/16 | | 講義 | クラーク業務を実践できる。 | |
| 17/18 | | 講義 | レセプト業務を実践できる。 | |
| 19/20 | | 講義 | レセプト業務を実践できる。 | |
| 21/22 | | 講義 | レセプト業務を実践できる。 | |
| 23/24 | | 講義 | レセプト業務を実践できる。 | |
| 25/26 | | 講義 | レセプト業務を実践できる。 | |
| 27/28 | | 実技試験 | | |
| 29 | | 筆記試験 | | |
| 30 | | 講義 | 試験解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 医療に関わる時事について興味・関心も持つ | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |